

昭和十四年一月二十三日

衆議院議長小山松壽殿

○小山邦太郎君 私ハ只今議題トナツテ居

○小山邦太郎君 私ハ只今議題トナツテ居
リマスル森林法中改正法律案外一件ノ委員

會ニ於ケル審議ノ經過竝ニ結果ニ付テ、御報告ヲ申上げタイト存ジマス、此度森林法改正ノ目的ハ、從來民有林、特ニ私有林ニ付キマシテハ國土保全ノ必要上、或ハ公益上ノ立場カラ、國家監督ノ必要アリト認ヌタル山林ニ限り保安林ニ編入ヲ致シマシテ、之ヲ監督致シテ居リマシタ外ハ、一切ノ私有林ハ其ノ所有者ノ自由ニ利用竝ニ處分ヲ任セテ居ツタノデアリマス、然ルニ此度ノ改正ニ依リマシテ、極メテ小面積ノ山林ヲ除クノ外、假令私有林ト雖モ擧ゲテ其ノ所有者ヲシテ施業案ヲ作ラシヌ、或ハ其等所ト云フコトニ相成ツタノデアリマス、此有者ヲ以テ組織スル森林組合ヲシテ施業案ヲ作ラシヌ、其ノ施業案ニ對シテハ地方長官ノ認可ヲ經テ、其ノ經營ニ當ラシムルニ、山林ガ持チマスル公益的使命ニ對シテ、十分其ノ目的ヲ達セシメタイト云フノガ、本案改正ノ趣旨デアルノデアリマシテ、我國林政ノ上ニ重大ナル意義ヲ持ツモノトシテ、此ノ一大改革案ニ對シマシテハ、委員會ハ前後九回ニ亘リマンシテ、午前午後ヲ通ジテ極メテ熱心ニ且ツ慎重ニ審議ヲ重ネ、論議ヲ盡シタノデアリマス、其ノ主ナルモノヲ御紹介申上げマスレバ、現行森林法ハ施行以來既ニ三十有餘年ノ年子ヲ伐ノ弊ニ陥リツツアリマスル私有林ノ現状ニ鑑ミマシテ、國土保全ノ目的の上カラ、或ハ又近時著シク増加致シマシタ建築用材等ヲ求、或ハ「バルブ」資源其ノ他枕木等ノ需要等ヲ考ヘマスルナラバ、是等ニ對シテ山

森林資源ノ保續増殖ヲ圖ルノデナケレバ、需給ノ調和ヲ保ツコトガ出來ナイ、更ニ國際收支ノ調整ノ上カラモ、斯ノ如キ計畫的ナ經營ニ入ルヲ必要トスルノデアリマスルカラ、其ノ狙ヒドコロハ極メテ時宜ニ適シテ居ルモノデアルト云フコトハ、質問ヲセラレマシタル總テノ委員ヲ通ジテノ前提デアリマシタ、併シナガラスル目的ヲ以チマシテ制定セラレマシタル以上ハ、特ニ森林ノ長期ニ亘ツテノ經營デアル特殊性ヲ認メタル金融制度ノ確立ヲ得テ、是ガ茲行シテ行ハレルノデナケレバ、徒ニ山林所有者ニ經濟上ノ壓迫ヲ加ヘ、時トシテハ却テ林業ニ對スル關心ヲ薄カラシメ、林業不振ノ因ヲ成ス虞ナシトモ限ラナイ、之ニ對シテ政府ハドウ云フ用意ヲ持ツテ居ルカト云フ質問、及ビイマ一ツニハ、山林ノ合理的經營トシテ極メテ手近ニシテ、最モ適切デアル所ノ林道ノ開設普及ニ對シテハ、政府ハドウ云フ用意ヲ持ツテ居ルカ、現ニ奥地森林地帶ニ堆積致シテ居リマス老齡過熟林ノ經濟的利用開發ノ途ヲ開ク爲ニハ、何トシテモ林道ノ普及開設ガ極メテ適切デアル、是ガ故ニ先年モ既ニ年々五百萬圓位ノ豫算ヲ計上シテ居タノデアルガ、此度ノ豫算ヲ見ルナラバ、僅ニ百万ヲ超ユルコト極メテ僅少、斯ノ如クンベ到底林業ノ合理的經營ハ、其ノ聲ノミ大ニシテ實ガ伴ハナイデハナイカ(拍手)、農林省ニ於テ八十年計畫デ更ニ我ガ日本ノ林道網完成ノ計畫アリト聞クガ、ソレニ對シテハ如何ナル成案ヲ持ツテ居ラルルカト云フ各委員カラノ熱心ナル質問ニ對シマシテ、農林大臣ハ極メテ大膽率直ニ、其ノ林道ノ問題ニ對シテハ次ノ議會ニハ必ず相當額ヲ増額ヲ決意致シ居ル(拍手)更ニ金融問題ニ對シテハ、是亦委員各位置ノ心配ト同様ノ心配ヲ持ツテ居ルノデ、デアルカラ、諸君ノ要望ニ對シ近キ將來ニ委員會ヲ他ニ設ケマシテ、專ラ如何ナル方法ニ依ツテ其ノ金融制度ノ確立ヲ爲スペキカト云フコトニ、研究研鑽ヲ重ネテ居ルノ

リマスル國有地ノ一部ヲ部分林制度ニ改變致シマシテ、一面ニハ地方ニ於ケル財源ノ造成維持ニ努メルト同時ニ、團體ノ協同作業訓練ノ上ニ役立タシメ、更ニ又一千万小學校ノ兒童ヲシテ眞ニ愛林愛土ノ思想ヲ涵養スルガ如キコトハ、現時ニ於テ造林計畫普及徹底ノ上ニ極メテ大ナル施設デアルト存ズルガ政府ハ之ニ對シテ如何ナル用意ヲ持ツテ居ルカ、此ノ問題ニ付キマシテハ、文部大臣モ進ンデ此ノ必要ヲ力説サレ、西班牙或ハ支那等ノ實例ヲ引用シテ、文部省ニ於テモ十分其ノ必要ヲ認メテ居ルノデアリカラ、農林省ト協力ヲ致シマシテ、其ノ目的達成ニ努力シタイ、又農林當局ニ於カレマシテハ、時恰モ二千六百年ヲ控ヘテ居リマスルノデ、此ノ意義アル記念事業トシテ、出來ルダケ其ノ地方ノ國有林ノ情勢ヲ調査シテ、地方ノ要望ニ相當面積ヲ以テ御應ヘルヤウニ致シタイトノ誠意アル御答ガアツタノデアリマス(拍手)。

更ニ國有林ノ特別會計ニ付テノ問題ニアリマスルガ、是ハ主トシテ價格問題ヲ中心トシテノ質疑デアリマシタ、即ち現在國有林ノ收入ハ、之ヲ一般會計ニ於テ處理セラレテ居リマスル結果、其ノ豫算面ニ計上セラレタル金額ノ掣肘ヲ受ケマシテ、例ヘバ材木市價方高クナリマスルト、處理供給ノ國有林材ハ手控ヘル、逆ニ材木市場價格ガ下ヅテ來マスレバ、其ノ處分數量ハ著シク增加スルト云フ結果、國有林材ガ材木ノ市價暴騰暴落ヲ緩和シ、若クハ需給ノ調節ニ當ルベキヨソ望マシキコトデアルノニ、事實ハ却テ逆作用ヲ致シマシテ、市價暴騰スレバ益々暴騰ニ拍車ヲ加ヘ、市價下落スレバ國有林材ガ洪水ノ如ク流レ出テ來マスカラ、市價ハ益々暴落スルト云フ結果ニナリマスル、是等ヲ矯正スル爲ニハ獨立會計ノ制度ヲ設クルノ用意アリヤ否ヤトノ質問ニ對シマシテハ、農林大臣ハ其ノ弊害ハ痛感致シテ居ル、是ガ矯正ニ向ツテハ全力ヲ盡

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

一定款

二 事業方法書

三 普通保険約款

四 保険料及責任準備金算出方法書

五 財產利用方法書

第二條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ免許ヲ申請シタル者ヲシテ相當ノ金額ヲ供託シシムルコトヲ得

前項ノ供託金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三條 保険事業ハ資本又ハ基金ノ總額十萬圓以上ノ株式會社又ハ相互會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條 保険會社ハ其ノ商號又ハ名稱中ニ其ノ營ム主タル保険事業ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

保険會社ニ非ザルモノハ其ノ商號又ハ名稱中ニ保険事業者タルコトヲ示スペキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 保険會社ハ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第六條 保険會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第七條 保険會社ハ生命保険事業ト損害保険事業トヲ併セ營ムコトヲ得ズ但シ再保險事業ヲ營ムコトヲ得

第八條 主務大臣ハ何時ニテモ保険會社ヲシテ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ保険會社ノ營業所事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財產ノ状況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムルコトヲ要ス

第九條 主務大臣保険會社ノ業務又ハ財產ノ状況ニ依リ必要アリト認ムルトキ

ハ業務執行ノ方法ノ變更又ハ財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 保険會社ガ第一條第二項ニ掲ぐル書類ニ定メタル事項ノ變更ヲ爲スニハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

主務大臣保険會社ノ業務若ハ財產ノ状況ニ依リ又ハ事情ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事項ノ變更ヲ得

主務大臣保険契約者、被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ第一項ノ變更認可ノ際現ニ存スル保險契約ニ付テモ亦將來ニ向テ其ノ變更ノ效力ノ及ブモノト爲スコトヲ得

前項ノ處分アリタルトキハ保險會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 保険會社命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ統制協定ヲ爲シタルトキハ之ヲ主務大臣ニ届出ヅルコトヲ要ス之ヲ變更又ハ廢止シタルトキ亦同ジ

主務大臣前項ノ統制協定方公益ニ反シ又ハ保險事業ノ健全ナル發達ヲ害スト認ムルトキハ其ノ變更又ハ取消ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣保険事業ノ健全ナル發達ヲ圖爲特ニ必要アリト認ムルトキハ保険會社ニ對シ第一項ノ統制協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ同項ノ統制協定ノ加盟會社若ハ非加盟會社ニ對シノ統制協定ノ全部若ハ一部ニ依ルベキコトヲ

命令若ハ第一條第二項ニ掲ぐル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ取締役若ハ監査役ノ解任

第二章 株式會社

一定款

一 保険ノ種類及營業ノ範圍

二 設立費用ノ償却ノ方法

三 株式申込證ニハ前條及商法第百七十五條第二項ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

四 商法第二百九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

五 第一百二十條及第一百二十八條第三項ノ規定ハ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ決議ノ要旨及貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

六 第一百二十八條、第二百十二條第二項第三項、第一項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得資本減少又ハ合併ニ依ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第三百七十七條第一項但書ノ期間ニ付亦同ジ

七 第十九條 保険事業ヲ營ム株式會社ハ其ノ組織ヲ變更シテ之ヲ相互會社ト爲スコトヲ得

八 第二十條 保険事業ノ期間ハ一年又ハ二年

九 第二十三條 第二十二條第二項第一項ノ公告ニ對シ第一百十二條第二項ノ期間内ニ異議ヲ述べタル保險契約者ノ數及其ノ保險金額ガ同條第三項ニ定ムル割合ヲ超ニザルトキハ取締役ハ商法第百條ノ手續ノ終了後遲滯ナク保險契約者總會ヲ招集スルコトヲ要ス

十 第二十四條 會社ハ組織變更ノ決議ニ於テ保險契約者總會ニ代ルベキ機關ニ關於此ノ組織變更ノ手續ノ通知ニ之ヲ準用ス

十一 第二十五條 保險契約者總會ニ關スル規定ヲ準用ス

十二 第二十六條 保険契約者總會ニ於テハ保

第二十條 組織變更ハ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條ノ規定ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得

シタルトキハ其ノ要旨及貸借對照表ヲ公告シ且株主名簿ニ記載アル質權者ニハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第百十二條第二項及第三項並ニ商法第九十九條及第一百條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ商法第一百條第一項但書中二月トアルハ之ヲ一月トス

第十二條 會社ガ前條第一項ノ公告ヲ爲シタル日以後保險契約ヲ爲サントスルトキハ保險契約者タラントスル者ニ組織變更ノ手續中ノ旨ヲ通知シ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承諾ヲ爲シタル保險契約者ハ組織變更ノ手續ノ關係ニ於テハ之ヲ保險契約者ニ非ザル者ト看做ス

諸ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ組織變更ノ手續ノ關係ニ於テハ之ヲ保險契約者ハ組織變更ノ手續中ノ旨ヲ通知シ其ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

對シ第一百十二條第二項ノ期間内ニ異議ヲ述べタル保險契約者ノ數及其ノ保險金額ガ同條第三項ニ定ムル割合ヲ超ニザルトキハ取締役ハ商法第百條ノ手續ノ終了後遲滯ナク保險契約者總會ヲ招集スルコトヲ要ス

商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ於テ會社ノ保險契約者ニ對スル通知ニ之ヲ準用ス

前項但書ノ期間ニ付亦同ジ

第一項但書ノ期間ハ一年又ハ二年

ノ組織ヲ變更シテ之ヲ相互會社ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損失ノ填補ニ備スル定メタルコトヲ得

主務大臣ハ取締役若ハ監査役ノ解任

命令若ハ第一條第二項ニ掲ぐル書類ニ定メタル特ニ重要ナル事項ニ違反シ又

ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ノ必要ト認ムル額ノ準

備金ヲ設クルコトヲ要ス

保險契約者總會ニ於テハ保

第三十九條第三項及商法第二百三十八條ノ規定ハ保険契約者總會ニ之ヲ準用ス	第三十九條第三項及商法第二百三十八條ノ規定ハ保険契約者總會ニ之ヲ準用ス
第二十六條 取締役ハ組織變更ニ關スル事項ヲ保険契約者總會ニ報告スルコトヲ要ス	第二十六條 取締役ハ組織變更ニ關スル事項ヲ保険契約者總會ニ報告スルコトヲ要ス
第二十七條 保険契約者總會ニ於テハ定款ノ變更其ノ他相互會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス	第二十七條 保険契約者總會ニ於テハ定款ノ變更其ノ他相互會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス
第二十八條 第一項ノ決議ハ前項ノ決議ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得但シ會社ノ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ	第二十八條 第一項ノ決議ハ前項ノ決議ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得但シ會社ノ債權者ノ利益ヲ害スルコトヲ得ズ
第二十九條 株式會社ガ其ノ組織ヲ變更ヲ受クルニ非サレバ其ノ效力ヲ生ゼズ	第二十九條 株式會社ガ其ノ組織ヲ變更ヲ受クルニ非サレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第三十條 組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ得	第三十條 組織變更ハ主務大臣ノ認可ヲ得
第三十一條 本店及主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、支店及從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間に二株式會社ニ付テハ解散ノ登記、相互會社ニ付テハ第四十條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス	第三十一條 本店及主タル事務所ノ所在地ニ於テハ二週間、支店及從タル事務所ノ所在地ニ於テハ三週間に二株式會社ニ付テハ解散ノ登記、相互會社ニ付テハ第四十條第二項ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ要ス
第三十二條 株式會社ノ保険契約者ハ組織變更ニ因リ其ノ相互會社ニ入社ス	第三十二條 株式會社ノ保険契約者ハ組織變更ニ因リ其ノ相互會社ニ入社ス
第三十三條 第百六十六條並ニ商法第二百八條第一項、第二百九十九條第一項第二項、第三百七十六條第一項及第三百八十八條	第三十三條 第百六十六條並ニ商法第二百八條第一項、第二百九十九條第一項第二項、第三百七十六條第一項及第三百八十八條
第三十四條 前項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ決議、第二十一條第一項ノ公告、第二十七條ノ決議及同意、前條ノ認可、第一百十二條第三項ノ異議並ニ商法第二百八條ノ手續終了ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス	第三十四條 前項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ登記ノ申請書ニハ第二十條第一項ノ決議、第二十一條第一項ノ公告、第二十七條ノ決議及同意、前條ノ認可、第一百十二條第三項ノ異議並ニ商法第二百八條ノ手續終了ヲ證スル書類ヲ添附スルコトヲ要ス
第三十五條 相互會社ハ其ノ名稱中ニ相	第三十五條 相互會社ハ其ノ名稱中ニ相
第三十六條 五會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス	第三十六條 五會社ナル文字ヲ用フルコトヲ要ス
第三十七條 基金ノ拂込ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ズ	第三十七條 基金ノ拂込ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ズ
第三十八條 發起人ニ非ザル者ガ社員タ	第三十八條 發起人ニ非ザル者ガ社員タ
第三十九條 第一項ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ	第三十九條 第一項ノ認證ノ年月日及其ノ認證ヲ
第四十條 社員總會ニ於テ發起人ニ對	第四十條 社員總會ニ於テ發起人ニ對
第四十一條 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名	第四十一條 取締役ニシテ會社ヲ代表セザル者アルトキハ會社ヲ代表スベキ者ノ氏名
第四十二條 商法第九條、第十一條乃至第五項、第五十九條及商法第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規	第四十二條 商法第九條、第十一條乃至第五項、第五十九條及商法第二百三十九條第三項第四項、第二百四十條、第二百四十三條、第二百四十四條及第二百四十七條乃至第二百五十三條ノ規
第四十三條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ	第四十三條 社員ハ會社ノ債權者ニ對シ直接ニ義務ヲ負フコトナシ
第四十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ	第四十四條 會社ノ債務ニ關スル社員ノ

責任ハ保険料ヲ限度トス
第四十五條 社員ハ保険料ノ拂込ニ付相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十六條 會社ハ定款ヲ以テ保険金額ノ削減ニ關スル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

第四十七條 損害保険ヲ目的トスル相互會社ノ社員ガ保険ノ目的ヲ譲渡シタルトキハ譲受人ハ會社ノ承諾ヲ得テ譲渡人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

第四十八條 生命保険ヲ目的トスル相互會社ノ社員ハ會社ノ承諾ヲ得テ他人ヲシテ其ノ權利義務ヲ承繼セシムルコトヲ得

第四十九條 社員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 社員ノ氏名及住所
二 各社員ノ保険契約ノ種類、保険金額及保険料

第五十條 商法第二百二十四條第一項及第二項ノ規定ハ會社ノ入社申込人又ハ社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三節 會社ノ機關

第五十一條 會社ハ定款ヲ以テ社員總會社員ニ對スル通知又ハ催告ニ之ヲ準用ス但シ保險關係ニ屬スル事項ノ通知又ハ催告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 十分ノ一以上ノ社員ハ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得但シ此ノ權利ノ行使ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムコトヲ得

第五十四條 商法第二百三十七條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第二百三十九條第一項第三項第十八條、第二百三十九條、第二百四十四條、第二百四十五條第一項第三項第

百三十二條第一項第一項、第二百三十三條、第二百三十四條第一項、第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條、第二百三十九條第一項第三項第

四項、第二百四十條、第二百四十二條、第二百四十四條、第二百四十五條第一項第三項第

一項第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第一項及第二百四十七條第一項中第三百四十三條トアルハ之ヲ保險業法第三十九條第二項トシ商法第二百四十五條第一項中第二百六十八條又ハ第一百七十九條トアルハ之ヲ保險業法第五十八條又ハ第六十一條トス

第五十九條 取締役ハ社員總會ノ認許ア

第六十條 商法第一百五十四條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第五十七條 取締役ハ定款及總會ノ議事錄ヲ各事務所ニ、社員名簿ヲ主タル事務所ニ備置クコトヲ要ス

第六十一條 社員總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキハ會社ハ決議ノ日ヨリ一月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

第六十二條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十四條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレバ基金利息ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十六條 商法第一百五十五條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第六十七條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十八條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十三條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十四條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレバ基金利息ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十六條 商法第一百五十五條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第六十七條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十八條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十三條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十四條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ訴ニ付テハ訴提起ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第一項ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十三條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十四條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非ザレバ基金利息ノ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六十五條 前條ノ請求ヲ爲シタル社員ハ特ニ會社ノ代表者ヲ指定スルコトヲ得

第六十六條 商法第一百五十五條乃至第二百五十八條、第二百六十條乃至第二百六十二條、第二百六十五條、第二百六十六條及第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ハ相互會社ノ取締役ニ之ヲ準用ス但シ商法第二百七十二條第一項中第二百三十七條トアルハ之ヲ保險業法第五十三條トス

第六十七條 會社ハ損失ノ填補ニ備フルタル社員ノ議決權ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ取下、和解又ハ請求ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ズ

第六十八條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十三條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十四條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條 會社ハ定款ヲ以テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

社員ガ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス
第七十條 退社員ハ定款又ハ保険約款ノ
定期ムル所ニ從ヒ其ノ権利ニ屬スル金額
ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
退社員ガ會社ニ對シテ負擔シタル債務
アルトキハ會社ハ前項ノ金額ノ中ヨリ
之ヲ控除スルコトヲ得
第七十一條 退社員ノ權利ニ屬スル金額
ノ拂戻ハ退社アリタル日ノ屬スル事業
年度ノ終ヨリ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ
要ス
退社員ノ拂戻請求權ハ前項ノ期間経過
ノ後二年謂之ヲ行ハザルトキハ時效ニ
因リテ消滅ス

第七節 解散

第七十二條 會社ガ解散ノ決議ヲ爲シタ
ルトキハ其ノ決議ノ認可ノ日ヨリ一週
間内ニ決議ノ旨及貸借對照表ヲ公告
スルコトヲ要ス

第一百十二條第二項乃至第四項、第百十
六條及第百二十條ノ規定ハ前項ノ場合
ニ之ヲ準用ス

第七十三條 商法第五十六條第三項、第
九十六條、第九十八條第二項、第九十
九條、第一百條、第一百二條、第一百三條、第
一百四條第一項第三項、第一百五條乃至第
一百一十二條、第四百八十八條第一項第二項、
第一百二十二條第一項、第四百十三條第
一項第二項、第四百十四條第一項及第
一百十五條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準
用ス但シ商法第一百條第一項但書中二月
第三十九條第二項ノ規定ハ商法第五十
六條第三項ノ規定ニ依ル選任ニ之ヲ準
用ス

第八節 清算

第七十四條 會社ガ解散シタルトキハ合
併及破産ノ場合ヲ除クノ外本節ノ規定
ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 準算人ハ左ノ順序ニ從ヒテ
會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス
一 一般ノ債務ノ辨済
二 社員ノ保険金額及第百三十四條第
二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スベ
キ金額ノ支拂

第七十六條 残餘財産ハ定款ニ別段ノ定
ナキトキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合
ヲ以テ之ヲ社員ニ分配スルコトヲ要ス
第七十七條 第五十三條、第五十六條乃
至第五十九條及第六十一條竝ニ商法第
五百六條、第百二十三條乃至第百二十
五條、第百二十八條、第百二十九條第
二項、第百三十一條但書、第百三十四
條、第二百三十一條、第二百三十六條、
第二百三十八條、第一百四十四條第二
項、第二百四十五條第一項第四號第二
項、第二百四十七條、第二百四十九條、
第二百五十四條第二項、第二百五十八
條、第二百六十一條、第一百六十五條、
第二百六十六條、第一百六十九條乃至
第二百七十二條、第一百七十四條乃至
第二百七十六條、第二百七十七條第一
項、第二百七十八條、第二百八十二條
乃至第二百八十四條、第四百十七條乃
至第四百二十四條、第四百二十六條第
一項及第四百二十七條乃至第四百二十
九條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニ
之ヲ準用ス但シ商法第二百四十五條第
一項及第二百四十七條第一項中第三百
四十三條トアルハ之ヲ保険業法第三十
九條第二項トシ商法第二百四十五條第
二項中第二百六十八條又ハ第二百七十
九條トアルハ之ヲ保険業法第五十八條
又ハ第六十一條トシ商法第二百七十二
條第一項中第二百三十七條トアルハ之
ヲ保険業法第五十三條トス

第七十八條 商法第二編第四章第七節及
第九節第二款ノ規定ハ其ノ性質ノ許サ
ニ從ヒテ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十九條 非訟事件手續法中株式會社
ニ關スル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ
相互會社ニ之ヲ準用ス

第八十條 相互會社ガ登記ヲ爲ス場合ニ
於テハ營利ヲ目的トセザル社團法人ト
同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第八十一條 相互會社ニハ營業収益稅ヲ
課セズ

第四章 計算

第八十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ
時期ニ於テ其ノ帳簿ヲ閉鎖シ總會終結
ノ後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、
事業報告書及損益計算書並ニ基金ノ償
却、基金利息ノ支拂、準備金及利益又
ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務
大臣ニ提出スルコトヲ要ス

前項ノ書類ノ様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定
ム

第八十三條 保險契約者、被保險者又ハ
保險金額ヲ受取ルベキ者ハ會社ノ定期
總會終結ノ後其ノ事業時間内何時ニテ
モ前條ニ掲タル書類ノ閲覽ヲ求メ又ハ
定款若ハ保険約款ニ定メタル費用ヲ支
拂ヒテ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ求ム
ルコトヲ得

第八十四條 保險會社ノ財產目錄ニ記載
スル有價證券中命令ヲ以テ定ムル國債
又ハ利拂及償還確實ナリト認メラル
債券ニ付テハ商法第三十四條第一項及
第八十五条 保險會社ノ設立費用及初ノ
五年度ノ事業費ハ會社成立ノ後十年ヲ
超エザル期間内ニ定款ノ定ムル所ニ從

第九十一条 保險會社ノ監査役ハ會社ノ
業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果
ヲ記載シタル監査書ヲ每事業年度二回

第九十二条 生命保險會社ハ命令ノ定期
ム所ニ依リ保險計理人ヲ選任シ保險數
理ニ關スル事項ヲ擔當セシムルコトヲ
要ス

第九十三条 保險計理人ガ其ノ職務ヲ怠
又ハ其ノ職務ヲ行フニ不適當ナル行爲
ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第九十四条 保險計理人前條第一項ノ事項ニ付主務
大員ニ提出スル書類ヲ掲タル事項中責任準備金其ノ他ノ保險契約ニ關
スル準備金未收保險料及保險約款ノ
規定ニ依ル貸付金ノ計算ノ正當ナルコ
トヲ確認スルコトヲ要ス

第九十五条 保險會社ノ監査役ハ會社ノ
業務及財產ノ狀況ニ關スル調査ノ結果
ヲ記載シタル監査書ヲ每事業年度二回

作成シ之ヲ本店又ハ主タル事務所ニ備

置クコトヲ要ス

第五章 會社ノ管理

第九十二條 保険會社ハ契約ヲ以テ他ノ

保險會社ニ其ノ業務及財產ノ管理ヲ委
託スルコトヲ得

前項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會又
ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ
本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ

非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十三條ノ規定ハ第一項ノ解除ニ之

本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ

非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十四條 前條ノ認可アリタルトキハ
各會社ハ遲滯ナク其ノ旨及契約ノ要旨
ヲ公告シ且管理ヲ委託シタル會社ニ在
リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨並
ニ受託會社ノ商號又ハ名稱及其ノ本店
又ハ主タル事務所ヲ登記スルコトヲ要
ス

第九十五條 本法ニ別段ノ定アル場合ヲ
除クノ外委託會社ト受託會社トノ間
ノ關係ハ委任ニ關スル規定ニ從フ

第九十六條 受託會社ガ委託會社ノ爲ニ
保險契約其ノ他ノ取引ヲ爲スニハ委託
會社ノ爲ニスルコトヲ表示スルコトヲ
要ス

前項ノ表示ヲ爲サズシテ爲シタル保險
契約其ノ他ノ取引ハ之ヲ自己ノ爲ニ爲
シタルモノト看做ス

商法第三十八條第一項及第三項ノ規定
ハ受託會社ニ之ヲ準用ス

民法第四十四條第一項ノ規定ハ管理ノ
委託アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第九十七條 管理契約ノ解除ハ株主總會
又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
前項ノ決議ハ商法第三百四十三條又ハ
南法第三十八條第一項及破產法第百六
十條乃至第百六十六條ノ規定ハ保険
會社ハ第百九條ノ決議ノ日ヨリ二週間
至第五號第十號第十一號、同條第二項
中此等ニ關係アル部分、第三百八十七

本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ルニ
非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十九條 主務大臣保險會社ノ業務又
ハ財產ノ狀況ニ依リ會社ヲシテ合併、
業務及財產ノ管理ノ委託又ハ契約ノ移
轉ヲ爲サシムルコトヲ適當ト認ムルト
キハ會社ニ對シ之ヲ勸告スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ主務大臣必要ト認ム
ルトキハ相手會社ヲ指定シ且其ノ會社
ニ對シテモ前項ノ事項ヲ勸告スルコト
ヲ得

第一百條 主務大臣保險會社ノ業務又ハ財
產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難
ト認ムルトキ又ハ業務ノ狀況著シク不
良ニシテ公益上其ノ事業ノ繼續ヲ不適
當ト認ムルトキハ事業ノ停止、業務及
財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲
スコトヲ得

第一百一條 前條又ハ第百三十七條第一項
ノ管理ハ主務大臣ノ選任シタル保險管
理人之ヲ爲ス保險會社ハ正當ノ事由ナ
クシテ保險管理人タルコトヲ拒否スル
コトヲ得ズ

第一百二條 本法第三十九條第二項ノ規定
ニ依リ保險金額ノ削減及將來ノ保險料
ノ減額又ハ契約條項ノ變更ノ處分アリタル
トキハ主務大臣ハ各事務所ノ所在地ノ登記
所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第一百三條 管理ノ命令アリタルトキハ
主務大臣必要アリト認ムルトキハ
ノ全部又ハ一部ヲ停止セザルモノト爲
スコトヲ得

第一百四條 主務大臣必要アリト認ムルト
キハ管理ヲ受クル會社ノ保險契約ニ付
計算ノ基礎ノ變更、保險金額ノ削減及
將來ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變
更ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 管理ヲ受クル會社ガ株式會社ナル場合
ニ於テ主務大臣必要アリト認ムルトキハ
株主ノ名義書換ノ禁止ヲ爲スコトヲ
得

第一百六條 第一百三十七條第一項
ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減及將來
ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變
更ノ處分アリタルトキハ會社ハ命令ノ
定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ
公告スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ
株主ノ名義書換ノ禁止ノ處分アリタル
トキ亦同ジ

第一百七條 第一百三十七條第一項
ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減及將來
ノ保險料ノ減額又ハ契約條項ノ變
更ノ處分アリタルトキハ會社ハ命令ノ
定ムル所ニ依リ其ノ旨及變更ノ要旨ヲ
公告スルコトヲ要ス前項ノ規定ニ依リ
株主ノ名義書換ノ禁止ノ處分アリタル
トキ亦同ジ

第一百八條 本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ル
ニ關スル決議ハ商法第三百四十三條又
ハ本法第三十九條第二項ノ規定ニ依ル
遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九條 解散ノ命ズル裁判
會社ガ前項第六號ノ事由ニ因リテ解散
シタルトキハ主務大臣ハ直ニ會社ノ本
店及支店又ハ各事務所ノ所在地ノ登記
所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第一百一十條 管理ノ命令アリタルトキハ
主務大臣ハ各事務所ノ所在地ノ登記
所ニ其ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第一百一十一條 保險會社ハ契約ヲ以テ責任
準備金算出ノ基礎ヲ同ジクスル保險契
約ノ移轉ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非
ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一百一十二條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十三條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十四條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十五條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十六條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十七條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十八條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百一十九條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十一條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十二條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十三條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十四條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十五條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十六條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二十七條 保險契約ヲ以テ會社財產ヲ移
轉スルキコトヲ定ムルコトヲ得但シ主
務大臣ガ其ノ會社ノ債權者ノ利益ヲ保
護スルニ必要ト認ムル財產ヲ留保スル
コトヲ要ス

第一百二條 主務大臣管理ノ命令ヲ爲シタ
ルトキハ直ニ會社ノ本店及支店又
務所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ
其ノ旨ヲ通知シ且會社ノ本店及支店又
ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ其ノ登
記ヲ囑託スルコトヲ要ス

第一百三條 管理ノ命令アリタルトキハ
シ主務大臣必要アリト認ムルトキハ其
ノ全部又ハ一部ヲ停止セザルモノト爲
スコトヲ得

第一百四條 管理ノ命令アリト認ムルトキハ
シ主務大臣必要アリト認ムルモノト爲
スコトヲ得

第一百五條 管理ノ命令アリタルトキハ
シ主務大臣必要アリト認ムルモノト爲
スコトヲ得

第一百六條 管理ノ命令アリタルトキハ
シ主務大臣必要アリト認ムルモノト爲
スコトヲ得

第一百七條 管理ノ命令アリタルトキハ
シ主務大臣必要アリト認ムルモノト爲
スコトヲ得

第一百八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十三條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十四條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十五條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十六條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十七條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百一十九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十三條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十四條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十五條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十六條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十七條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百二十九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

條第一項、第三百八十八條乃至第三百九
一條、第三百九十七條及第三百九
八條ノ規定ハ管理ヲ受クル保險會社
ニハ之ヲ適用セズ

第一百三十三條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十四條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十五條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十六條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十七條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百三十九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十三條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十四條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十五條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十六條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十七條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百四十九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十三條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十四條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十五條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十六條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十七條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十八條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百五十九條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百六十條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百六十一條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

第一百六十二條 保險會社ハ左ノ事由ニ因リテ
解散ス

前項ノ公告ニハ移轉セラルベキ保険契約者ニシテ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ其ノ期間ハ一月ヲ下ルコトヲ得ズ前項ノ期間内ニ異議ヲ述ベタル保険契約者ガ移轉セラルベキ保険契約者總數ノ十分ノ一ヲ超エ又ハ其ノ保険金額ガ移轉セラルベキ保険金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキハ保険契約ノ移轉ヲ爲スコトヲ得ズ第百十四條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ベタル保険契約者ニシテ其ノ變更ヲ受クベキ者ガ變更ヲ受クベキ保険契約者總數ノ十分ノ一ヲ起エ又ハ其ノ保険金額が變更ヲ受クベキ保険契約者ノ保険金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルトキ亦同ジ前項ノ規定ハ相互會社ガ第五十一條第一項ノ機關ニ依ラズシテ保険契約移轉ノ決議ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第百十三條 保険契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保険契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ザエルニ至ル時迄其ノ移轉セントスル保険契約ト同種ノ保険契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十四條 保険契約全部ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ移轉セバキ保険契約ニ付移轉契約ヲ以テ計算ノ基礎ノ變更、保険金額ノ削減及將來ノ保険料ノ減額又ハ契約條項ノ變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十五條 前條ノ規定ニ依リ保険金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保険契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保険契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ザエルニ至ル時迄其ノ移轉セントスル保険契約ト同種ノ保険契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第百十六條 保険契約ノ移轉ヲ爲シタル會社ガ其ノ保険契約ニ付有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社之ヲ承繼スル轉契約ヲ以テ移轉スベキコトヲ定メタル財產ニ付亦同ジ

保険契約移轉ノ決議ノ後ニ於テ移轉スベキ保険契約ニ付爲シタル收支其ノ他移轉スベキ保険契約又ハ財產ニ付生じタル變更ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ歸ス

第百十八條 保険契約ノ移轉アリタル場合ニ於テ移轉ヲ受ケタル會社が相互會社ナルトキハ其ノ保険契約者ハ其ノ會社ニ入社ス

第百十九條 會社ハ解散ノ後ト雖モ三月内ニ限り保険契約移轉ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第百二十條 保険契約ノ移轉ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會又ハ社員總會ノ決議アリタル時ヨリ保険契約ノ移轉ヲ爲シ又ハ爲ザエルニ至ル時迄其ノ財產ノ處分ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ會社ノ維持ニ必要ナル費用ヲ支出スル場合

第百二十二條 主務大臣ノ命令ニ依リ契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ於テハ會社ハ前條第一項ノ協議ヲ以テ移轉スベキ保険契約ニ關スル準備金ノ金額ニ相當スル財產ヲ移轉スベキコトヲ定ムルコトヲ要ス

第百二十一條 第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百二十四條 及第百十五條ノ規定ハ前條第一項ノ協議ニ之ヲ準用ス

第百二十三條 主務大臣契約ノ移轉ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移轉スベキ保険契約ニ關スル計理ニ付特別ノ計算ヲ爲スベキコトヲ命ジ其ノ他移轉ヲ受クル會社ノ保険契約者被保險者又ハ保険金額ヲ受取ルベキ者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル

第百二十四條 契約ノ移轉ニ關スル協議ヲ爲スコトヲ得ズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ契約ノ移轉ニ付必要ナル決

第百二十二條 第一項ノ規定ニ依ル契約ノ移轉ノ認可ヲ證スル書類ヲ添附スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百二十一條 保險會社第百條又ハ第二百二十二條第一項ノ規定ニ依ル契約ノ移轉ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テ相手會員付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ノ割合ニ依リ其ノ金額ヲ削減シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス

前條ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社亦第一項ノ同ジ但シ保險契約ニ因リテ生ジタル債權ニシテ前項ノ規定ニ依リ支拂ヲ停止セラレタルモノニ付テハ移轉契約ニ定メタル保險金額削減ナク其ノ旨及契約ノ移轉ニ關スル行為ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

會社ガ保険契約ノ移轉ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ對シ之ヲ通知ス第一項ノ協議ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス第一項ノ協議調ヒタルトキハ各會社ハ主務大臣前項ノ指定又ハ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ相手會社ニ對シ之ヲ通知ス第一項ノ協議ハ各會社ニ於テ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス主務大臣ニ對シ契約ノ移轉ニ關シ協議ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十六條 第百三條、第百四條、第百十七條、第百十八條及第百二十條ノ規定ハ主務大臣ノ命令ニ依ル契約ノ移轉ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第百二十七條 保險會社ハ其ノ營業ノ讓渡ヲ爲スコトヲ得ズ

第百二十八條 保險會社が合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第百二十九條 第百十二條第一項乃至第四項、第百六條及第百二十條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第百三十條 會社ガ合併ヲ爲ス場合ニシタルトキハ其ノ其他保険契約ニ因リテ生ジタル權利ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第百三十一條 第二項ノ規定ニ依リテ爲シタル合併ハ異議ヲ述ベタル保險契約者其ノ他保険契約ニ因リテ生ジタル權利ヲ有スル者ニ之ヲ準用ス

第百三十二條 會社ガ合併ヲ爲ス場合ニシタルトキハ其ノ他保険契約ニ付シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移轉スベキ保険契約ニ關スル計算ノ基础又ハ契約條項ノ變更ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條 及第百十五條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ準用ス

第百三十九條 第一百三十條及第百三十二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

第百四十條 契約ノ移轉ニ關スル協議ヲ爲スコトヲ得

第百四十一條 第一百四十條ノ規定ハ前項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

第百四十二條 第一百四十條ノ規定ハ前項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

第百四十三條 相互會社ハ他ノ保險會社ト合併ヲ爲スコトヲ得

第百四十四條 第一百四十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

第百四十五條 第一百四十條ノ規定ハ前項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

第百四十六條 第一百四十條ノ規定ハ前項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ契約條項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ其ノ變更ヲ爲サントスル會社ニ之ヲ准用ス

會社ノ一方ガ株式會社ナルトキハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ハ株式會社ナルコトヲ得相互會社ト株式會社トノ合併ノ場合ニ於テハ各本法又ハ商法ノ合併ニ關スル規定ニ從フコトヲ要ス合併契約書ニ記載スベキ事項其ノ他合併ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百三十一條 前條ノ合併アリタル場合ニ於テ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立スル會社ガ相互會社ナルトキハ合併ニ因リテ解散スル會社ノ保険契約者ハ其ノ會社ニ入社シ株式會社ナルトキハ相互會社ノ社員ハ其ノ地位ヲ失フ但シ保険關係ニ屬スル權利義務ハ合併契約ノ定ムル所ニ從ヒ合併後存續スル株式會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル株式會社之ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ合併後存續スル會社ニ入社スペキ者ハ商法第四百十二條第一項ノ規定ニ依ル社員總會ニ於テ社員同一ノ權利ヲ有ス但シ合併契約ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十二條 保険會社ガ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ清算人ヲ選任ス

商法第二百二十九條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣ハ監査役又ハ三月前ヨリ引續

キ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株式ヲ有スル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ依り清算人ヲ解任スルコトヲ得但シ此ノ請求ヲ爲ス社員ニ付定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得重要ナル事由アルトキハ主務大臣ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルヲ得商法第四百二十六條第二項ノ規定ハ保險事業ヲ營ム株式會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セズ

第一百三十三條 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ主務大臣之ヲ定ム

第一百三十四條 保険會社ガ第百八條第一項第二號、第六號又ハ第七號ニ掲グル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス

前項ノ期間經過ノ後ハ生命保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額、損害保險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間ニ對スル保險料ヲ拂戻スコトヲ得

第一百三十五條 商法第四百二十三條第二項中裁判所トアルハ保險會社ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

主務大臣ハ保險會社ノ清算人ニ於テ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第一百三十六條 主務大臣ハ保險會社ノ清算事務及財產ノ狀況ヲ検査シ、財產ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第一百三十七條 主務大臣ハ解散シタル保険會社ノ業務又ハ財產ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムタルトキハ業務及財產ノ管理又ハ契約ノ移轉ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第一百三十八條 第一條第一項ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ保險事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三十九條 第一百三十九條第一項ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢査役ハ左ノ場合ニ於テハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十條 第二條第一項又ハ第五十一條第一項ノ機關ヲ構成スル者自己若ハ第三者ヲ利シ又ハ保險契約者若ハ社員ヲ害セントヲ圖リテ其ノ任務ニ背キ保險契約者若ハ社員ニ財產上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十一條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰

第九號若ハ第三十八條第二項第三號第百三十八條 第一條第一項ノ規定ニ違反シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十二條 第一百三十九條第一項ニ掲グル行爲ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

第一百四十三條 前四條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第一百四十四條 第百三十九條若ハ第百四十條ニ掲グル者又ハ相互會社ノ檢查役若ハ第七十八條ノ監査委員其ノ職務ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十五條 左ニ掲グル事項ニ關シ不正ノ請託ヲ受ケ財產上ノ利益ヲ收受シ、要求シ又ハ約束シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四十六條 第二章、第三章及第七章ニ定ムル命令ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

二 第二章、第三章及第七章ニ定ムル訴訟ノ提起又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主若ハ十分ノ一以上ノ社員ノ権利ノ行使議決權ノ行使

前項ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第一百四十七條 第一百四十四條第一項又ハ第三十四條第四號乃至第六號第

部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ
價額ヲ追徴ス
第一百四十七條 第百四十四條第二項又ハ
第一百四十五條第二項ノ罪ヲ犯シタル者
自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免
除スルコトヲ得
第一百四十八條 保険計理人第九十條第一
項ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナクシテ
確認ヲ爲サズ又ハ不正ノ確認ヲ爲シタ
ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下
ノ罰金ニ處ス
第一百四十九條 法人又ハ人ノ代理人、戸
主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業
者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第百
三十八條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ
其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザ
ルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ
得ズ

第一百五十條 第百三十八條ノ罰則ハ其ノ
者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他ノ法
人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者
人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者
ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラズ
第一百五十一條 第百三十九條、第一百四十
條、第一百四十二條又ハ第一百四十四條第
一項ニ掲タル者ガ法人ナルトキハ本章
ノ罰則ハ其ノ行爲ヲ爲シタル取締役其
ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員又ハ
支配人ニ之ヲ適用ス
第一百五十二條 保険會社ノ發起人、設立
委員、取締役、監査役、検査役、清算
人、第九十二條第一項ノ管理ノ受託會
社、保險管理人、整理委員、監督員、
商法第三百九十八條第一項（第七十八
條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ管理
人、監査委員、商法第一百五十八條第
二項、第二百七十條第一項若ハ第二百
七十二條第一項（第六十條、第六十二
條又ハ第七十七條ニ於テ準用スル場合

ヲ含ム）ノ職務代行者又ハ支配人ハ左
ノ場合ニ於テハ五千圓以下ノ過料ニ處
ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキ
ハ此ノ限ニ在ラズ
一 第五條ノ規定ニ違反シテ他ノ事業
ヲ營ミタルトキ
二 第六條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社
ノ常務ニ從事シタルトキ
三 本法ニ基キテ爲ス主務大臣ノ命令
ニ違反シタルトキ
四 本法ニ定ムル検査又ハ調査ヲ拒ミ、
妨げ又ハ忌避シタルトキ
五 官廳、總會又ハ第二十四條第一項
若ハ第五十一條第一項ノ機關ニ對シ
不實ノ申述ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シ
タルトキ
六 第十條第一項ノ規定ニ違反シテ第
一條第二項ニ掲タル書類ニ定メタル
事項ノ變更ヲ爲シタルトキ
七 本法ニ定ムル登記ヲ爲スコトヲ怠
リタルトキ
八 本法ニ定ムル公告、通知若ハ届出
ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告、
通知若ハ届出ヲ爲シタルトキ
九 本法ノ規定ニ違反シ正當ノ事由ナ
クシテ書類ノ閲覽又ハ其ノ謄本若ハ
ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
十 第十四條又ハ第三十八條第二項ノ
規定ニ違反シテ入社申込證ヲ作ラズ
又ハ株式申込證若ハ入社申込證ニ記
載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ
記載ヲ爲シタルトキ
十一 第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ
違反シテ資本減少ノ手續ヲ爲シタル
トキ
十二 第二十條乃至第二十七條ノ規定
ニ違反シテ組織變更ノ手續ヲ爲シタル
トキ
十三 定款、社員名簿、議事録、財產
目錄、貸借對照表、事業報告書、監
查書、事務報告書、決算報告書、第

四十二條ニ於テ準用スル商法第三十
二條第一項ノ帳簿、第七十八條ノ調
査書、損益計算書又ハ基金ノ償却、
基金利息ノ支拂若ハ準備金及剩餘金
ノ配當ニ關スル議案ニ記載スベキ事
項ヲ記載セズ又ハ不實ノ記載ヲ爲シ
タルトキ
十四 第五十六條第一項（第七十七條
ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）第九十
一條又ハ第六十七條及第七十七條ニ
於テ準用スル商法第二百八十二條第
一項ノ規定ニ違反シテ帳簿又ハ書類
ヲ備置カザルトキ
十五 第五十四條ニ於テ準用スル商
法第二百三十三條又ハ第二百三十四條
第一項ノ規定ニ違反シテ社員總會若
ハ第五十一條第一項ノ機關ニ招集シ
若ハ招集セズ又ハ定款ニ定メタル地
以外ノ地ニ於テ之ヲ招集シタルトキ
十六 本法又ハ定款ニ定メタル取締役、
監査役又ハ保險計理人ノ員數ヲ缺ク
ニ至リタル場合ニ於テ其ノ選任手續
ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ
十七 第十九條第三項、第六十三條、
第六十五條、第八十六條又ハ第八十
七條ノ規定ニ違反シテ準備金ヲ積立
テズ又ハ之ヲ使用シタルトキ
十八 第八十八條第一項ノ規定ニ違反
シテ責任準備金ノ計算ヲ爲サズ又ハ
之ヲ帳簿ニ記載セザルトキ
十九 第七十二條ノ規定ニ違反シテ解
散ノ手續ヲ爲シタルトキ
二十 第七十五條又ハ第七十六條若ハ
定款ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ處
分シ又ハ殘餘財產ヲ分配シタルトキ
二十一 第七十七條ニ於テ準用スル商
法第一百二十四條第三項ノ規定ニ違反
シテ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠
リ又ハ第七十八條ニ於テ準用スル商
法第四百三十一條第二項ノ規定ニ違反
シテ特別清算開始ノ申立ヲ爲スコ

二十二 清算ノ結了ヲ遲延セシムル目
的ヲ以テ第七十七條ニ於テ準用スル
商法第四百二十一條第一項ノ期間ヲ
不當ニ定メタルトキ
二十三 第七十七條又ハ第七十八條ニ
於テ準用スル商法第四百二十三條又
ハ第四百三十八條ノ規定ニ違反シテ
債務ノ辨濟ヲ爲シタルトキ
二十四 第七十八條ニ於テ準用スル商
法第四百四十五條第一項又ハ第二項
ノ規定ニ違反シタルトキ
二十五 第七十八條ニ於テ準用スル商
法第三百八十六條、第四百三十二條、
第四百三十七條又ハ第四百五十四條
第一項ノ規定ニ依ル裁判所ノ財產保
全ノ處分ニ違反シタルトキ
二十六 第百一條第二項ノ規定ニ違反
シ正當ノ事由ナクシテ保險管理人タ
ルコトヲ拒否シタルトキ
二十七 主務大臣ノ選任シタル保險管
理人若ハ清算人又ハ裁判所ノ選任シ
タル管理人若ハ清算人ニ事務ノ引渡
ヲ爲サザルトキ
二十八 第百三條（第一百二十六條ニ於
テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ違
反シテ事業ヲ營ミタルトキ
二十九 第百十二條ノ規定ニ違反シテ
保險契約移轉ノ手續ヲ爲シタルトキ
三十 第百二十七條ノ規定ニ違反シテ
營業ノ讓渡ヲ爲シタルトキ
三十一 第百二十八條第一項第二項、
第一百三十條第三項又ハ第七十三條ニ
於テ準用スル商法第九十九條若ハ第
百條ノ規定ニ違反シテ合併ノ手續ヲ
爲シタルトキ
三十二 第百十三條又ハ第一百十五條
(第一百十九條第一項ニ於テ準用ス
ル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シテ保
險契約、財產ノ處分又ハ債務ヲ負擔
スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第百五十三條 保険計理人第九十條第二項ノ規定ニ違反シテ答申ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ答申ヲ爲シタルトキハ五千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スペキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十四條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百五十五條 不正ノ競争ノ目的ヲ以テ相互會社ノ登記シタル名稱ト同一若ハ類似ノ商號若ハ名稱ヲ使用シ又ハ不正ト誤認セシムベキ商號若ハ名稱ヲ使用シタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百五十六條 非訟事件手續法第二百六十條乃至第二百八條ノ規定ハ第百五十二條乃至前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第一百五十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百五十八條 本法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法施行前に生ジタル事項ニモ亦之ヲ適用ス但シ從前ノ規定ニ依リテ生ジタル效力ヲ妨げズ

第一百五十九條 明治三十三年七月一日前設立シタル保険會社ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ事業ノ免許ヲ受ケタル保険會社ト看做ス

第一百六十條 従前ノ規定ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行為ハ本法中之相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一百六十一條 商法中改正法律施行法（以下新商法施行法ト稱ス）第四條、第五條、第九條、第十一條、第十二條第一項、第十七條、第十八條、第十九條第一項第三項、第二十二條第一項第二項、第二十三條第一項、第二十四條、第二十五條第一項、第二十九條第一項、第三十條、第三十二條乃至第三十四條、第四十一條乃至第四十五條、第四十八條、第五十一條第一項、第五十二條第一項、第五十三條第一項、第五十四條、第五十五條第一項、第五十六條第一項、第五十七條第一項、第五十八條第一項、第五十九條第一項、第六十條、第六十一條、第六十二條乃至第六十四條、第六十五條ノ規定ノ適用

及第五十四條ノ規定ハ相互會社ニ之ヲ準用ス但シ同法第三十三條第一項中新法第一百九十七條トアルハ之ヲ保険業法第四十一條トシ第四十三條中新法第二百六十七條トアルハ之ヲ保険業法第五十七條トシ第四十四條中新法第二百六十八條トアルハ之ヲ保険業法第五十八條トス

前項ニ於テ準用スル新商法施行法第十條第一項、第二十三條第一項又ハ第十二條第一項、第二十九條第一項ノ規定ニ至ル。第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第十四十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ相互會社ノ取締役及其ノ職務ヲ行フ監査役ニ付亦同ジ

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十二條 本法施行前に會社ガ資本減少ノ決議ヲ爲シ又ハ各會社ガ保険契約移轉若ハ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ資本減少、保険契約移轉處ス同條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ其ノ相互會社ノ清算人及其ノ職務ヲ行フ監査役ニ付亦同ジ

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十三條 本法施行ノ際現ニ保險會社ノ常務ニ從事スル取締役若ハ監査役ノ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十四條、第六十五条第一項第三項、第六十四條及第六十五ノ規定ノ適用

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 外國人又ハ外國法人ガ本法施行地内ニ支店、從タル事務所又ハ代理店ヲ設ケテ保險事業ヲ營ム場合ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕
○國務大臣（八田嘉明君）只今議題トナリ
マシタ保険業法改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上げマス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百七十條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣八田嘉明君登壇〕
○國務大臣（八田嘉明君）只今議題トナリマシタ保険業法改正法律案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ御説明申上げマス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ保險會社ニ關スル規定其ノ他ニ於キマシテ、商法ノ規定ヲ準用シ、或ハ之ニ對スル特則ヲ設ケテ居ル點が甚ダ多イノデアリマス、然ルタコトデアリマス、現行保險業法ハ相互會社ニ關スル規定其ノ他ニ於キマシテ、商法ノ規定ヲ準用シ、或ハ之ニ對スル特則ヲ設ケマシタルコト、其ノ他業界内外ノ希望ニ即シ、株式會社ノ相互化、株式會社ノ相互會社トノ合併、保險計理人等ノ制度ヲ整備シ、又不當ノ競争ヲ防止スル爲、事業ノ正調査ニ關スル委員會ヲ設ケ、此ノ委員會ニ係リ、其ノ後二三ノ補正ヲ加ヘタニ止マルノデアリマシテ、制定以來四十年ヲ經マシタ現在ニ於キマシテハ、不十分ノ點ガ少クナイト認メラルニ至ツタノデアリマス、就キマシテハ政府ニ於キマシテ、此ノ改正ノ重要性ニ鑑ミマシテ、特ニ是ガ改正ニ満場一致テ以テ決議セラレマシタ答申ニ基キ、事業發展ノ現狀ニ即應スル趣旨ノ諸規定ヲ設ケタノデアリマス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保険數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保険計理人ト看做ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保険數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保険計理人ト看做ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保険數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保険計理人ト看做ス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保険數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保険計理人ト看做ス

達ヲ遂げ來ツテ居ルノデアリマシテ、國民生活ノ安定並ニ其ノ資金運用ヲ通ジマシテ、國家産業經濟ノ發展上極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ツテ居リマスルコトハ、洵ニ御同慶ニ存ズル所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、其ノ一層普及發達ヲ圖ルト共ニ、其ノ經營ヲシテ益、公益的ナラシムルヤウ、之ニ對スル指導監督ノ衝ニ當ツタノデアリマス、然ルニ現行保險業法ハ明治三十三年ノ制定ニ係リ、其ノ後二三ノ補正ヲ加ヘタニ止マルノデアリマシテ、制定以來四十年ヲ經マシタ現在ニ於キマシテハ、不十分ノ點ガ少クナイト認メラルニ至ツタノデアリマス、就キマシテハ政府ニ於キマシテ、此ノ改正ノ重要性ニ鑑ミマシテ、特ニ是ガ改正ニ満場一致テ以テ決議セラレマシタ答申ニ基キ、事業發展ノ現狀ニ即應スル趣旨ノ諸規定ヲ設ケタノデアリマス

第一項ニ於テ準用スル新商法施行法第百六十九條 本法施行ノ際現ニ生命保險會社ニ於テ保険數理ニ關スル事項ヲ擔當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後三年ヲ限リ之ヲ本法ニ依ル保険計理人ト看做ス

〔田村秀吉君登壇〕
○田村秀吉君 私ハ只今上程ニ相成リマス
タル保険業法改正法律案ニ付テ聊カ質問ヲ致シタトイト思フノデアリマス、其ノ第一ハ營利保険事業ノ統制改善ニ付テ、第二ハ生産保險ノ國營問題ニ付テ、第三ハ保險資金ノ運用ニ付テ、第四ハ簡易保險ト生命保險ノ移管ノ問題ニ付テ、第五ハ震災保險制度ノ新設ニ付テデアリマシテ、以上ノ點ニ關シ商工大臣、大藏大臣竝ニ厚生大臣ニ對シテ其ノ所見ヲ質シタトイト存ズルノデアリマス我國ノ保險事業ハ近時非常ナル發達ヲ致シマシタコトハ申スマデモナイコトデアリマス、其ノ理由ハ經濟ノ發達ト保險思想ノ普及ガ原因ヲ成シテ居ルト思フノデアリマスルガ、現在保險業ノ王座ヲ占メテ居リマス生命保險事業ノ近況ヲ見マシテモ、世界ノ第一位ヲ占メテ居ル米國、第二位ノ英國ニ將ニ雁行セントスル長足ノ進歩ヲ示シツアルノデアリマス、生命保險ノ現在ハ、徵兵保險ヲ加ヘマシテ現在ノ民營會社三十社、其ノ資本金僅ニ二千二百餘万圓ニシテ、契約件數一千五百万件、保險金額ハ二百億ニ達セントシテ居リマス、財界ニ色々影響ヲ持ツテ居リマスル運轉資產ノ總額約三十五億圓、而シテ毎年ノ保險ノ增加ハ、契約件數ニ於て二百五十万件、保險金額ニ於テ三十五億圓、資產ノ增加四百万圓ト云フ大ナル發達ヲ爲シツツアルノデアリマス、又一方簡易保險ノ現狀ヲ見マスルニ、契約件數約三千二百万件、保險金額ハ五十二億圓ニ達シ、積立金ハ十五億圓ニ垂ント致シテ居リマス、是亦毎年契約件數ニ於テ四百五十万件、保險金額四億圓、積立金ニ於テ二億圓ヲ增加シツツアル現狀デアリマス、此ノ保險制度ハ申上ゲルマデモナク、國民大眾ガ零細ナル資金ヲ集積致シマシテ、社會連帶性ヲ有シテ居リマスルノミナラズ、又一

ノ弊害ハ、又將來ノ經營ヲ如何ニスルカト云フコトニ付キマシテ、吾々ハ重大ナル關係ノ揃奪ヲヤレバ前ノ契約ハ是ハ無効ニアリテ居ルモノデアリマスルガ故ニ、是ガ監督統制命保險ノ國營問題ニ付テ、第三ハ保險資金ノ運用ニ付テ、第四ハ簡易保險ト生命保險ノ新設ニ付テデアリマシテ、以上ノ點ニ關シ商工大臣、大藏大臣竝ニ厚生大臣ニ對シテ其ノ所見ヲ質シタトイト存ズルノデアリマス我國ノ保險事業ハ近時非常ナル發達ヲ致シマシタコトハ申スマデモナイコトデアリマス、其ノ理由ハ經濟ノ發達ト保險思想ノ普及ガ原因ヲ成シテ居ルト思フノデアリマスルガ、現在保險業ノ王座ヲ占メテ居リマス生命保險事業ノ近況ヲ見マシテモ、世界ノ第一位ヲ占メテ居ル米國、第二位ノ英國ニ將ニ雁行セントスル長足ノ進歩ヲ示シツアルノデアリマス、生命保險ノ現在ハ、徵兵保險ヲ加ヘマシテ現在ノ民營會社三十社、其ノ資本金僅ニ二千二百餘万圓ニシテ、契約件數一千五百万件、保險金額ハ二百億ニ達セントシテ居リマス、財界ニ色々影響ヲ持ツテ居リマスル運轉資產ノ總額約三十五億圓、而シテ毎年ノ保險ノ增加ハ、契約件數ニ於て二百五十万件、保險金額ニ於テ三十五億圓、資產ノ增加四百万圓ト云フ大ナル發達ヲ爲シツツアルノデアリマス、又一方簡易保險ノ現狀ヲ見マスルニ、契約件數約三千二百万件、保險金額ハ五十二億圓ニ達シ、積立金ハ十五億圓ニ垂ント致シテ居リマス、是亦毎年契約件數ニ於テ四百五十万件、保險金額四億圓、積立金ニ於テ二億圓ヲ增加シツツアル現狀デアリマス、此ノ保險制度ハ申上ゲルマデモナク、國民大眾ガ零細ナル資金ヲ集積致シマシテ、社會連帶性ヲ有シテ居リマスルノミナラズ、又一

ノ弊害ハ、是ハ吾々ハ飽クマデ是正シテ行

為ニ、國家財政上、金融上並ニ國民經濟、更ニ進ンデへ國民生活ノ上ニ至大ノ關係ヲ有シタル保険業法改正法律案ニ付テ聊カ質問ヲ致シタル保険事業ノ統制改善ニ付テ、第二ハ生産保險ノ國營問題ニ付テ、第三ハ保險資金ノ運用ニ付テ、第四ハ簡易保險ト生命保險ノ新設ニ付テデアリマス、以上ノ點ニ關シ商工大臣、大藏大臣竝ニ厚生大臣ニ對シテ其ノ所見ヲ質シタトイト存ズルノデアリマス我國ノ保險事業ハ近時非常ナル發達ヲ致シマシタコトハ申スマデモナイコトデアリマス、其ノ理由ハ經濟ノ發達ト保險思想ノ普及ガ原因ヲ成シテ居ルト思フノデアリマスルガ、現在保險業ノ王座ヲ占メテ居リマス生命保險事業ノ近況ヲ見マシテモ、世界ノ第一位ヲ占メテ居ル米國、第二位ノ英國ニ將ニ雁行セントスル長足ノ進歩ヲ示シツアルノデアリマス、生命保險ノ現在ハ、徵兵保險ヲ加ヘマシテ現在ノ民營會社三十社、其ノ資本金僅ニ二千二百餘万圓ニシテ、契約件數一千五百万件、保險金額ハ二百億ニ達セントシテ居リマス、財界ニ色々影響ヲ持ツテ居リマスル運轉資產ノ總額約三十五億圓、而シテ毎年ノ保險ノ增加ハ、契約件數ニ於て二百五十万件、保險金額ニ於テ三十五億圓、資產ノ增加四百万圓ト云フ大ナル發達ヲ爲シツツアルノデアリマス、又一方簡易保險ノ現狀ヲ見マスルニ、契約件數約三千二百万件、保險金額ハ五十二億圓ニ達シ、積立金ハ十五億圓ニ垂ント致シテ居リマス、是亦毎年契約件數ニ於テ四百五十万件、保險金額四億圓、積立金ニ於テ二億圓ヲ增加シツツアル現狀デアリマス、此ノ保險制度ハ申上ゲルマデモナク、國民大眾ガ零細ナル資金ヲ集積致シマシテ、社會連帶性ヲ有シテ居リマスルノミナラズ、又一

ノ弊害ハ、是ハ吾々ハ飽クマデ是正シテ行

為ニ、國家財政上、金融上並ニ國民經濟、更ニ進ンデへ國民生活ノ上ニ至大ノ關係ヲ有シタル保険業法改正法律案ニ付テ聊カ質問ヲ致シタル保険事業ノ統制改善ニ付テ、第二ハ生産保險ノ國營問題ニ付テ、第三ハ保險資金ノ運用ニ付テ、第四ハ簡易保險ト生命保險ノ新設ニ付テデアリマス、以上ノ點ニ關シ商工大臣、大藏大臣竝ニ厚生大臣ニ對シテ其ノ所見ヲ質シタトイト存ズルノデアリマス我國ノ保險事業ハ近時非常ナル發達ヲ致シマシタコトハ申スマデモナイコトデアリマス、其ノ理由ハ經濟ノ發達ト保險思想ノ普及ガ原因ヲ成シテ居ルト思フノデアリマスルガ、現在保險業ノ王座ヲ占メテ居リマス生命保險事業ノ近況ヲ見マシテモ、世界ノ第一位ヲ占メテ居ル米國、第二位ノ英國ニ將ニ雁行セントスル長足ノ進歩ヲ示シツアルノデアリマス、生命保險ノ現在ハ、徵兵保險ヲ加ヘマシテ現在ノ民營會社三十社、其ノ資本金僅ニ二千二百餘万圓ニシテ、契約件數一千五百万件、保險金額ハ二百億ニ達セントシテ居リマス、財界ニ色々影響ヲ持ツテ居リマスル運轉資產ノ總額約三十五億圓、而シテ毎年ノ保險ノ增加ハ、契約件數ニ於て二百五十万件、保險金額ニ於テ三十五億圓、資產ノ增加四百万圓ト云フ大ナル發達ヲ爲シツツアルノデアリマス、又一方簡易保險ノ現狀ヲ見マスルニ、契約件數約三千二百万件、保險金額ハ五十二億圓ニ達シ、積立金ハ十五億圓ニ垂ント致シテ居リマス、是亦毎年契約件數ニ於テ四百五十万件、保險金額四億圓、積立金ニ於テ二億圓ヲ增加シツツアル現狀デアリマス、此ノ保險制度ハ申上ゲルマデモナク、國民大眾ガ零細ナル資金ヲ集積致シマシテ、社會連帶性ヲ有シテ居リマスルノミナラズ、又一

マスレバ株式ハ要ラヌ、資本金ハ要ラヌ、是モ國營ニ適スル大キナ理由デナケレバナラヌ、保険ノ國營ニ對シテ反対ヲ唱ヘル所ノ業者ガ、其ノ理由ノ最モ重大ナルモノト爲スノハ、國營ニ移スナラバ利廻ガ低下スル、隨テ募集能率ガ低クナル、斯ウ云フコトヲ申シテ居ルノデアリマスルガ、併シ利廻ノ低下ニ付テハ自ラ方法ガアルト思フ、現在非常ニ使ツテ居ル所ノ事業費ノ節減ノ方法モアリマセウ、其ノ他ノ方法ニ依ツテ利廻ノ低下ヲ多少防止スル方法無キニシモアラズ、又保険ニ加入スル所ノ國民大衆ノ側カラ申シマスレバ、多少ノ利廻ハ好クテモ、契約シタ後ニ金ガ取レヌト云フ不安ガアツテハタマラナイ、ドウシテモ一朝事故ノアツタ場合ニ金ノ取レルト云フ安心ガ保険契約ノ増加スル根本原因デナケレバナラヌ、支拂ノ安心ト云フコトガ保険制度ノ根本ヲ成スモノト致シマスレバ、利廻云々ニ依ル募集中止ノ議論ハ成立タナインデアリマス、而モ國民大衆カラ零碎ナル資金ヲ集メテ居ル、此ノ金ヲ一部特權階級ノ營利主義ニ放任スル譯ニハ行カヌ、是モ保険ヲ國營ニ移サナケレバナラヌト云フ大キナ理由デアリマス、是等ノ點カラ鑑ミマシテ、ドウシテモ保険ハ國營ニ一步ヅツ進ミツツアルト思フノデアリマスルガ、此ノ點ニ對シテ政府ハ――既ニ現在ノ改正案モ統制ニ一歩ヲ進メテ居ル、又弱小會社ノ整理ニ付テハ強制命令ヲ用ヒントシテ居ル、國營ニ對シテ一步ヲ進メタト思フノデアリマスルガ、更ニ其ノ改正案ノ趣旨ヲ十分ニ行ヒ得ナイ結果ガ私ハ出テ來ルト思フ、其ノ場合ニ政府ハ寧ロ進シテモ、斯ノ考合ニ進マンツル意思アリヤ否ヤフ、三大臣ニ對シテ承リタイト思フノデアリマス、ノ運轉資金ヲ有シテ居リマス、而シテ年々更ニ加フルニ四億圓、ツ運轉資金ヲ増

加シツツアルノデス、此ノ保険會社ノ運轉資金、之ヲ何處ニドウ云フ風ニ使ツテ行クカ、保険ノ金ト云フモノハ、郵便貯金ヤ銀行ノ預金トハ違ヒマシテ、引出サレル虞ハ殆ドナイ、長期金融ノ最高峰ト言ハレテ居ル、標準契約年限ヲ見マスルト、約三十年、三十年ハ入レルバカリ出サレル心配ハナイ、斯ウ云フノデアリマスルカラ、三十一年、三十五億圓、ソレニ加フルニ年々四億圓ツツ増シテ行クカ、是ガ廳テ五十億トナリ、六十億トナリ、百億トナリ、此ノ大キナ資產ヲ如何ニ運轉スルカ、此ノ運轉方法ヲドウシテ行クカ、國債ニ運轉カ、國債ニ對シテ行クカ、國債ニ振期資金ニ使ハレテ居リマスルガ、大體ハ營利事業ノ資金トセラレテ、アトハ大體營利事業ニ振向ケラレテ居ル、長期資金ニ使ハレテ居リマスルガ、大體ハ營利事業ノ資金トセラレテ居ル、此ノ國債ニ對スル振當ヲ三割ニスルカ、五割ニスルカ、或ハ赤字財政救濟ノ意味デ全額ヲ國債ニ振向ケルカ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方針ヲマスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一分七厘ノ利鞘ヲ取ツテ居ルノデアリマス、其ノ中ノ一部ハ無論保険契約者ニ對スル追求ハ之ヲドウシテモ、防止シナケレバナラヌ、現在ノ利廻ノ平均ヲ調べテ見マスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一部デアル、大部分ハ事業費ニ充テ居ル、二千二百万圓ノ資本金、成程此ノ運轉資金三十五億ニ比ベマスト、二千二百萬圓ハ僅カノ資本、金デアリマスルガ、此ノ資本金デ、低金利ノ今日ノ時代、配當制限ガ言ハレル場合ニ、収益率ヲ加ヘマスルト、良イ會社ハ一年約四割八分、五割ニ近

居ル、此ノ事業費ニ對スル節約ヲドウスルカ、低金利ノ今日ノ時代ニ平均利廻五分七厘ニ投資シテ居ル、此ノ投資ニ對シテ公益大藏大臣、商工大臣ハ將來如何ニナサントスルノデアルカ、私ハ是ハ國債ニ相當振向性ヲ如何ニ増大シテ行クカ、是等ニ對シテ居ル、標準契約年限ヲ見マスルト、約三十年、此ノ三十五億圓ト云フ金ハ財界ニ運轉セラレテ居ル心配ハナイ、斯ウ云フノデアリマスルカラ、三十一年、三十五億圓、ソレニ加フルニ年々四億圓ツツ増シテ行クカ、是ガ廳テ五十億トナリ、六十億トナリ、百億トナリ、此ノ大キナ資產ヲ如何ニ運轉スルカ、此ノ運轉方法ヲドウシテ行クカ、國債ニ運轉カ、國債ニ對シテ行クカ、國債ニ振期資金ニ使ハレテ居リマスルガ、大體ハ營利事業ノ資金トセラレテ居ル、此ノ國債ニ對スル振當ヲ三割ニスルカ、五割ニスルカ、或ハ赤字財政救濟ノ意味デ全額ヲ國債ニ振向ケルカ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方針ヲマスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一分七厘ノ利鞘ヲ取ツテ居ルノデアリマス、其ノ中ノ一部ハ無論保険契約者ニ對スル追求ハ之ヲドウシテモ、防止シナケレバナラヌ、現在ノ利廻ノ平均ヲ調べテ見マスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一部デアル、大部分ハ事業費ニ充テ居ル、二千二百万圓ノ資本金、成程此ノ運轉資金三十五億ニ比ベマスト、二千二百萬圓ハ僅カノ資本、金デアリマスルガ、此ノ資本金デ、低金利ノ今日ノ時代、配當制限ガ言ハレル場合ニ、収益率ヲ加ヘマスルト、良イ會社ハ一年約四割八分、五割ニ近

居ル、此ノ事業費ニ對スル節約ヲドウスルカ、低金利ノ今日ノ時代ニ平均利廻五分七厘ニ投資シテ居ル、此ノ投資ニ對シテ公益大藏大臣、商工大臣ハ將來如何ニナサントスルノデアルカ、私ハ是ハ國債ニ相當振向性ヲ如何ニ増大シテ行クカ、是等ニ對シテ居ル、標準契約年限ヲ見マスルト、約三十年、此ノ三十五億圓ト云フ金ハ財界ニ運轉セラレテ居ル心配ハナイ、斯ウ云フノデアリマスルカラ、三十一年、三十五億圓、ソレニ加フルニ年々四億圓ツツ増シテ行クカ、是ガ廳テ五十億トナリ、六十億トナリ、百億トナリ、此ノ大キナ資產ヲ如何ニ運轉スルカ、此ノ運轉方法ヲドウシテ行クカ、國債ニ運轉カ、國債ニ對シテ行クカ、國債ニ振期資金ニ使ハレテ居リマスルガ、大體ハ營利事業ノ資金トセラレテ居ル、此ノ國債ニ對スル振當ヲ三割ニスルカ、五割ニスルカ、或ハ赤字財政救濟ノ意味デ全額ヲ國債ニ振向ケルカ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方針ヲマスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一分七厘ノ利鞘ヲ取ツテ居ルノデアリマス、其ノ中ノ一部ハ無論保険契約者ニ對スル追求ハ之ヲドウシテモ、防止シナケレバナラヌ、現在ノ利廻ノ平均ヲ調べテ見マスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一部デアル、大部分ハ事業費ニ充テ居ル、二千二百万圓ノ資本金、成程此ノ運轉資金三十五億ニ比ベマスト、二千二百萬圓ハ僅カノ資本、金デアリマスルガ、此ノ資本金デ、低金利ノ今日ノ時代、配當制限ガ言ハレル場合ニ、収益率ヲ加ヘマスルト、良イ會社ハ一年約四割八分、五割ニ近

居ル、此ノ事業費ニ對スル節約ヲドウスルカ、低金利ノ今日ノ時代ニ平均利廻五分七厘ニ投資シテ居ル、此ノ投資ニ對シテ公益大藏大臣、商工大臣ハ將來如何ニナサントスルノデアルカ、私ハ是ハ國債ニ相當振向性ヲ如何ニ増大シテ行クカ、是等ニ對シテ居ル、標準契約年限ヲ見マスルト、約三十年、此ノ三十五億圓ト云フ金ハ財界ニ運轉セラレテ居ル心配ハナイ、斯ウ云フノデアリマスルカラ、三十一年、三十五億圓、ソレニ加フルニ年々四億圓ツツ増シテ行クカ、是ガ廳テ五十億トナリ、六十億トナリ、百億トナリ、此ノ大キナ資產ヲ如何ニ運轉スルカ、此ノ運轉方法ヲドウシテ行クカ、國債ニ運轉カ、國債ニ對シテ行クカ、國債ニ振期資金ニ使ハレテ居リマスルガ、大體ハ營利事業ノ資金トセラレテ居ル、此ノ國債ニ對スル振當ヲ三割ニスルカ、五割ニスルカ、或ハ赤字財政救濟ノ意味デ全額ヲ國債ニ振向ケルカ、之ニ對シテ政府ハ如何ナル方針ヲマスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一分七厘ノ利鞘ヲ取ツテ居ルノデアリマス、其ノ中ノ一部ハ無論保険契約者ニ對スル追求ハ之ヲドウシテモ、防止シナケレバナラヌ、現在ノ利廻ノ平均ヲ調べテ見マスルト、約五分七厘、豫定利率ガ四分デアリマスカラ、一部デアル、大部分ハ事業費ニ充テ居ル、二千二百万圓ノ資本金、成程此ノ運轉資金三十五億ニ比ベマスト、二千二百萬圓ハ僅カノ資本、金デアリマスルガ、此ノ資本金デ、低金利ノ今日ノ時代、配當制限ガ言ハレル場合ニ、収益率ヲ加ヘマスルト、良イ會社ハ一年約四割八分、五割ニ近

マス、總額ハ三千万件、五十億ハ既ニ突破シテ居ル、年々増加スル保険金額四億圓ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニ毎年累増シテ行キツアルノアリマスルカラ、民營保険ヲ假ニ急速ニ國營保険ニスル譯ニハ行カナイ、現在ノ營利保険ノ弊害ヲ直チニ之ヲ徹底的ニ直ス譯ニ行カヌトスレバ、ドウシテモ簡易生命保険ノ保険金額ヲ高メテ行ク以外ニ、途ハナイト思フノアリマスガ、現在七百圓ニ最高額ガ引上ガラレタノア、更ニ適當ノ機會ニ是レ以上一世間ニハ千圓ト云フ要求ガ相當アルノアリマス、最高額ヲ千圓ニ引上ガルノ意思アリヤ否ヤ、同ヒタイト思フノアリマス、ソレカラ第五ハ、震災保険ノ新設ノ問題ニ付テ、商工大臣ニ伺ヒタイト思フノアリマス、是ハ損害保険ニ關スルコトデアリマスルガ、我國ハ由來昔カラ世界第一ノ地震國ト言ハレテ、此ノ地震國ノ日本ニ於テ、其ノ地震ノ損害保険ノ免責ハ、各會社トモ約款中ノ免責ニナツテ居ル、地震ニ罹ツタ者ハ固ヨリ、火災ニ罹ツテモ、津浪ニ罹ツテモ、サウ云フモノノ損害ハ補填シナイ、斯ウ云フ免責約款ガ附キモノニナツテ居ルノアリマス、隨テ日本國民中毎年ノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ル、サウ云フコトハ日本獨特ノ政治機構ヲ結ンデ行カナケレバナラス、然ルニ此ノ地震國日本ト言ハレル國ニ於テ、而モ保険制度ガ非常ナ發達ラシテ居ルニ拘ラズ、年々起ル地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

家ヲ、或ハ潰シタリ、或ハ破損シタリ、或ハ焼失、流失シタリシテ居ル、而シテ此ノ明治五年以來七十年間ノ統計ノ示ス所ヲ見マスガ、合計十八回アルノアリマス、此ノ十八回ノ地震ハ千軒以上ノ家ヲ焼イタリ潰シタリシテ居ル、其ノ一回ノ平均ガ五万四千三百九十四戸ニ達シテ居ル、詰リ三年十箇月目ニ毎回五万四千三百九十四戸ガ、倒レクリ焼カレタリシテ居ルノアリマスガ、是等ニ對シテ政府ハ其ノ時ニナツテ一時ノ救濟ニバカリ狂奔スルヨリモ、根本的救済ヲヤツテ、日本ハ一君萬民ノ國體ヲ成シテ居ル、國民ガ相倚ツテ國家ヲ組織シテ居ル、其ノ中、一部分ノ者ガ非常ナ或ル偶然ノ不幸ニ陥ツタ場合ニハ、ソレニ對シテハ相互扶助ノ見地ニ立ツテ之ヲ救濟シナケレバナラス（拍手）其ノ爲ニ保険制度が發達シテ居ル、然ルニ是ダケヲ取除ケテ置クト云フコトハ、而モ地震國日本ニ於テ洵ニ不可思議ナル現象デアルト申サナケレバナラス、ソコデ私ハ震災保険制度ヲ下ニ直チニ之ヲ新設シハ或ハ二千圓位、千圓デモ宜シイ、小サナ家ヲ取敢ズ建テテ、サウシテ鬼ニ角生業ニ從事シ得ル所ノ最低ノ金額ヲ保障シテヤノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ル、サウ云フコトハ日本獨特ノ政治機構ヲ結ンデ行カナケレバナラス、然ルニ此ノ地震國日本ト言ハレル國ニ於テ、而モ保険制度ガ非常ナ發達ラシテ居ルニ拘ラズ、年々起ル地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

失、流失シタリシテ居ル、而シテ此ノ明治五年以來七十年間ノ統計ノ示ス所ヲ見マスガ、合計十八回アルノアリマス、此ノ十八回ノ地震ハ千軒以上ノ家ヲ焼イタリ潰シタリシテ居ル、其ノ一回ノ平均ガ五万四千三百九十四戸ニ達シテ居ル、詰リ三年十箇月目ニ毎回五万四千三百九十四戸ガ、倒レクリ焼カレタリシテ居ルノアリマスガ、是等ニ對シテ政府ハ其ノ時ニナツテ一時ノ救濟ニバカリ狂奔スルヨリモ、根本的救済ヲヤツテ、日本ハ一君萬民ノ國體ヲ成シテ居ル、國民ガ相倚ツテ國家ヲ組織シテ居ル、其ノ中、一部分ノ者ガ非常ナ或ル偶然ノ不幸ニ陥ツタ場合ニハ、ソレニ對シテハ相互扶助ノ見地ニ立ツテ之ヲ救濟シナケレバナラス（拍手）其ノ爲ニ保険制度が發達シテ居ル、然ルニ是ダケヲ取除ケテ置クト云フコトハ、而モ地震國日本ニ於テ洵ニ不可思議ナル現象デアルト申サナケレバナラス、ソコデ私ハ震災保険制度ヲ下ニ直チニ之ヲ新設シハ或ハ二千圓位、千圓デモ宜シイ、小サナ家ヲ取敢ズ建テテ、サウシテ鬼ニ角生業ニ從事シ得ル所ノ最低ノ金額ヲ保障シテヤノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ルニシテ居ル所ノ地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

ニカ建テルコトガ出来ル、生計ノ基礎ハ突破シテ居ル、年々増加スル保険金額四億圓ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニ毎年累増シテ行キツアルノアリマスルカラ、民營保険ヲ假ニ急速ニ國營保険ニスル譯ニハ行カナイ、現在ノ營利保険ノ弊害ヲ直チニ之ヲ徹底的ニ直ス譯ニ行カヌトスレバ、ドウシテモ簡易生命保険ノ保険金額ヲ高メテ行ク以外ニ、途ハナイト思フノアリマスガ、現在七百圓ニ最高額ガ引上ガラレタノア、更ニ適當ノ機會ニ是レ以上一世間ニハ千圓ト云フ要求ガ相當アルノアリマス、最高額ヲ千圓ニ引上ガルノ意思アリヤ否ヤ、同ヒタイト思フノアリマス、ソレカラ第五ハ、震災保険ノ新設ノ問題ニ付テ、商工大臣ニ伺ヒタイト思フノアリマス、是ハ損害保険ニ關スルコトデアリマスルガ、我國ハ由來昔カラ世界第一ノ地震國ト言ハレテ、此ノ地震國ノ日本ニ於テ、其ノ地震ノ損害保険ノ免責ハ、各會社トモ約款中ノ免責ニナツテ居ル、地震ニ罹ツタ者ハ固ヨリ、火災ニ罹ツテモ、津浪ニ罹ツテモ、サウ云フモノノ損害ハ補填シナイ、斯ウ云フ免責約款ガ附キモノニナツテ居ルノアリマス、隨テ日本國民中毎年ノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ルニシテ居ル所ノ地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

ニカ建テルコトガ出来ル、生計ノ基礎ハ突破シテ居ル、年々増加スル保険金額四億圓ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニ毎年累増シテ行キツアルノアリマスルカラ、民營保険ヲ假ニ急速ニ國營保険ニスル譯ニハ行カナイ、現在ノ營利保険ノ弊害ヲ直チニ之ヲ徹底的ニ直ス譯ニ行カヌトスレバ、ドウシテモ簡易生命保険ノ保険金額ヲ高メテ行ク以外ニ、途ハナイト思フノアリマスガ、現在七百圓ニ最高額ガ引上ガラレタノア、更ニ適當ノ機會ニ是レ以上一世間ニハ千圓ト云フ要求ガ相當アルノアリマス、最高額ヲ千圓ニ引上ガルノ意思アリヤ否ヤ、同ヒタイト思フノアリマス、ソレカラ第五ハ、震災保険ノ新設ノ問題ニ付テ、商工大臣ニ伺ヒタイト思フノアリマス、是ハ損害保険ニ關スルコトデアリマスルガ、我國ハ由來昔カラ世界第一ノ地震國ト言ハレテ、此ノ地震國ノ日本ニ於テ、其ノ地震ノ損害保険ノ免責ハ、各會社トモ約款中ノ免責ニナツテ居ル、地震ニ罹ツタ者ハ固ヨリ、火災ニ罹ツテモ、津浪ニ罹ツテモ、サウ云フモノノ損害ハ補填シナイ、斯ウ云フ免責約款ガ附キモノニナツテ居ルノアリマス、隨テ日本國民中毎年ノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ルニシテ居ル所ノ地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

ニカ建テルコトガ出来ル、生計ノ基礎ハ突破シテ居ル、年々増加スル保険金額四億圓ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニ毎年累増シテ行キツアルノアリマスルカラ、民營保険ヲ假ニ急速ニ國營保険ニスル譯ニハ行カナイ、現在ノ營利保険ノ弊害ヲ直チニ之ヲ徹底的ニ直ス譯ニ行カヌトスレバ、ドウシテモ簡易生命保険ノ保険金額ヲ高メテ行ク以外ニ、途ハナイト思フノアリマスガ、現在七百圓ニ最高額ガ引上ガラレタノア、更ニ適當ノ機會ニ是レ以上一世間ニハ千圓ト云フ要求ガ相當アルノアリマス、最高額ヲ千圓ニ引上ガルノ意思アリヤ否ヤ、同ヒタイト思フノアリマス、ソレカラ第五ハ、震災保険ノ新設ノ問題ニ付テ、商工大臣ニ伺ヒタイト思フノアリマス、是ハ損害保険ニ關スルコトデアリマスルガ、我國ハ由來昔カラ世界第一ノ地震國ト言ハレテ、此ノ地震國ノ日本ニ於テ、其ノ地震ノ損害保険ノ免責ハ、各會社トモ約款中ノ免責ニナツテ居ル、地震ニ罹ツタ者ハ固ヨリ、火災ニ罹ツテモ、津浪ニ罹ツテモ、サウ云フモノノ損害ハ補填シナイ、斯ウ云フ免責約款ガ附キモノニナツテ居ルノアリマス、隨テ日本國民中毎年ノヤウニアツチコツチニ行ハレテ居ル所ノ地震ト云フ偶然ノ事故ニ罹ツテ、其ノ事故ノ爲ニ生計ノ基礎ヲ失フ、或ハ家ヲ失フ、サウ云フ者ヲ國家ハ放任シテ居ル、保険會社ハ之ヲ免責約款ニシテ居ルニシテ居ル所ノ地震ニ對シテ、救濟方法ヲ講ジテ居ナイト云月ニ約一回ノ割合ニ地震ガ起ツテ居ル、而モ其ノ範圍ハ北海道カラ九州琉球、臺灣ノ際マデニ瓦ツテ、地震ハ全國各地ニ起ツテ居ル、此ノ地震ガ一回ノ地震ニ千戸以上ノ

云フコトデハアリマセスケレドモ、其ノ精神性ニ於キマシテハ全ク御述ニナリマシタル所ノ公益的精神ニ、其ノ改正ノ重點ヲ置イテ、國營ニ次グノ長所ヲ發揮シタイト云フ考カラ出テ居ルノデアリマス、然ラバ將來國營ニスルカドウカト云フ御尋ニ付キマシテハ、是ハ御說ノ通リ理論的ニ考ヘラレルノデアリマスケレドモ、一國ノ經濟事情或ハ其ノ他各般ノ事情ニ依リマシテ、此ノ國營ノ點ニ付キマシテハ十分ニ實際的ニ研究スル必要ガアルノデアリマシテ、我國ノ如キ既ニ多年ノ歴史ヲ持ツテ居リ、是ガ又經濟上、社會上重大ナル關係ヲ持ツテ居リマスル場合ニ於キマシテハ、俄ニ是ノ判断ハ困難デアリマス、政府ト致シマシテ、我國ノ如キ既ニ慎重考究スル考デ居リマス、何レニ致シマシテモ、今回ノ改正案ノ中ニハ、御述ニナリマシタル精神ハ十分ニ盛ツテアル積リデアリマシテ、政府ト致シマシテハ今後一層此ノ點ニ付キマシテハ善處ヲ致シタイト考ヘテ居ル次第アリマス

第三ニ資金ノ運用ニ付テ御尋ガアリマシタ、保険會社ノ資金ノ運用ハ、申スマダモナク極メテ有利ニ、而モ確實ニ、サウシテ必要ニ應ジテハ生命保險等ニ於キマシテハ、殊ニ直チニ現金ニ換ヘルコトノ出來マスルヤウナ便ヲモ考ヘテ置カナケレバナラヌノデアリマシテ、政府ト致シマシテハ只今縷々御述ニナリマシタル通り、現下ノ時局ニ即應致シマンテ、特ニ生命保險ノ資金ハ其ノ性質ガ長期投資ニ適シテ居リマスルヤウナ關係ト併セ考ヘマシテ、現在最モ必要デアリマス所ノ生産力擴充ノ資金ニ、效果的ニ運用致スヤウニ指導モシ、又其ノ事ガ望マシイコトデアルト考ヘテ居リマスノデ、政府ハ其ノ方ノ運用ニ一段ノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、又御述ニシテモ此ノ資金ノ運用ニ付キマシテハ、何レニ致シマテハ、十

第四ノ共同管理ト云フ點ニ付テ御尋ガアリマシタ、是ハ簡易生命保險並ニ民營保險ニ付キマシテノ御尋デアリマシタガ、厚生大臣ヨリ御答ガアルト思ヒマスケレドモ、商工省トシテ一應ノ氣持ヲ申シマスレバ、は御說ノ通リ論理的ニ考ヘラレルノデアリマスケレドモ、是ハ簡易生命保險並ニ付キマシテノ御尋デアリマシタガ、厚生大臣ヨリ御答ガアルト思ヒマスケレドモ、商工省トシテ一應ノ氣持ヲ申シマスレバ、

保險料率、或ハ資產ノ運用等ノ基礎的事項ニ付キマシテハ、現在デモ商工大臣ハ大藏大臣、厚生大臣ト協議ヲシテ定ムルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ官制ノ上テ左様ニ相成ツテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ總テ重要ナル問題ニ付キマシテハ、實際上三大臣ガ話合ワテ居ルヤウナ譯デアリマスカラ、御說ノ共同管理ト云フコトニ付キマシテハ、或ル意味ニ於テハ左様ニナツテ居ルトモ言ヘルノデアリマスガ、

正式ノ意味ニ於テハ只今サウナツテ居ルト云フコトヲ御答スルコトガ出來ナイノデアリマス、

最後ニ震災保險制度ニ付テ御尋ガアリマシタガ、是ハ我國ノ如キ國柄ニ於キマシテハ極メテ重要ナル問題デアルト思ヒマス、御意見ノ點ハ淘ニ御尤ト存ズル次第アリマス、併シナガラ申スマダモナク此ノ事ハ一般ノ民營事業會社ナシテ、直チニ實行セセルコトハ不可能デアリマス等、其ノ他ニ慎重ナル考慮ヲ要スルモノト存ジマス、政府ニ於テハ早ク此ノ點ニ付テ考ヘテ實行シタラ宜イデヤナイカト云フコトヲ御述ニナリマシタガ、其ノ通リデアリマシテ、目下諸般ノ事情ヲ考ヘテ專心研究ヲ致シテ居ルヤウナ狀態デアリマス、以上御答申上ガマス

○國務大臣廣瀬久忠君（登壇）

〔國務大臣石渡莊太郎君（登壇）〕
○國務大臣（石渡莊太郎君）第一ノ御尋ハ下付テ御答申上ゲマス、第一ハ生命保險ノ國營問題デガザイマスガ、是ハ大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リヤウナ問題デアリマス、只今商工大臣ノ改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來スルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

○議長（小山松壽君）紅露昭君（登壇）

〔紅露昭君（登壇）〕
○紅露昭君（登壇）
〔紅露昭君（登壇）〕
○議長（小山松壽君）紅露昭君（登壇）

〔紅露昭君（登壇）〕
〔紅露昭君（登壇）〕
〔紅露昭君（登壇）〕
〔紅露昭君（登壇）〕
〔紅露昭君（登壇）〕
〔紅露昭君（登壇）〕

〔議長退席、副議長著席〕
却テ反對ノ結果ヲ此ノ改正案ニ依ツテ招來スルノデアリマス、何トナレバ、只今商工大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リマスルト、改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來ルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

〔議長退席、副議長著席〕
却テ反對ノ結果ヲ此ノ改正案ニ依ツテ招來スルノデアリマス、何トナレバ、只今商工大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リマスルト、改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來ルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

〔議長退席、副議長著席〕
却テ反對ノ結果ヲ此ノ改正案ニ依ツテ招來スルノデアリマス、何トナレバ、只今商工大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リマスルト、改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來ルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

〔議長退席、副議長著席〕
却テ反對ノ結果ヲ此ノ改正案ニ依ツテ招來スルノデアリマス、何トナレバ、只今商工大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リマスルト、改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來ルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

〔議長退席、副議長著席〕
却テ反對ノ結果ヲ此ノ改正案ニ依ツテ招來スルノデアリマス、何トナレバ、只今商工大臣ノ改正ノ御趣旨ヲ伺ツテ居リマスルト、改正ノ大眼目ハ大體五點ニ分ツコトガ出來ルノデアリマス、其ノ一ツハ政府ノ監督權ノ擴大強化デアリマス、其ノ二ハ小規模會社ノ整理ト更生デアリマス、其ノ三ハ常任幹助長セシメ、其ノ更生ト發展ヲ圖ルニアリト申サレマシタケレドモ

却テ其ノ商工大臣ノ強要ト云フコトニ依ツテ、成績ガ不良デアルコトヲ天下ニ暴露スルノ結果トナリマシテ、信用失墜致シ、營業不振ニ拍車ヲ掛ケルノ惡結果ヲ齎シマシテ、到底所期ノ效果ハ從來舉ゲ得ナカツタノデアリマス、政府ハ本法改正ニ名ヲ藉リテ、弱小會社ヲ此ノ際濱シテシマフ御考ナラバ格別、然ラズンバ何故ニ斯ル法案ヲ御提出ニナツタノカ、全ク私共ハ判断ニ苦シムノデアリマス、申スマデモナク從來弱小會社ガ苦境ニ立ツテ居ルコトハ事實ニアリマス、又其ノ苦境ニ立チマシタ所ノ原因ハ種々舉ゲラレテ居リマスルガ、其ノ主タル原因ハ、先程田村君モ言ハレマシタ如ク、各社ノ不當ナル爭ノ結果、手段ヲ選バズ無駄ナル費用ヲ投ジマシテ、新規契約ノ獲得ニ狂奔シ、遂ニハ生命保險本來ノ目的ニアリ所ノ、共同精神ニ基ク相互扶助ノ範圍ヲ逸脱致シマシテ、資本主義ノ缺點ヲ遺憾ナク暴露致シマシテ、利潤ノ向上ニノミ沒頭シテ以テ今日ニ至ツタノデアリマスガ、固ヨリ此ノ點監督ノ地位ニアツタ所ノ政府ニモ一半ノ責任ハアリマスルガ、私ハ敢テ既往ハ咎メマセヌ、併シ少クトモ統制ヲ圖ルノダト云フ提案理由ヲ裏切ルガ如キ此ノ改正案ハ、不當デアルト私ハ斷ゼザルヲ得ナイノデアリマス、此ノ點ニ對スル政府ノ御所見ヲ伺ツテ置キマス、若シ又此ノ際本法制定ニ依リマシテ、弱小會社ヲ整理統一シテ、大會社ノミヲ此ノ際保護スルノデアルト致シマスナラバ、結局數箇ノ大會社ノミガ天下ニ存續、横行、跋扈スルノ結果ト相成リマスルガ、政府ハ本法ノ改正ニ依ツテ、何ガ故ニハ何カ隱レタル所ノ目的ガアルノデハナイカ、眞ニ弱小會社ノ整理ニアルト致シマスレバ、先づ以テ政府ハ本法ノ改正ニ依リマシテ、先づ第一ニ契約者ヲ完全ニ保護スルノ政策ヲ執ラケレバナラス、然ルニモ先程來提案ノ理由ヲ伺ヒマシテモ、

間接ニコソ契約者ハ保護サレマスケレドモ、直接ニ何等今回ノ改正ニ依ツテ吾々保険契約ハ保護サレテ居ラナイノデアリマス、又若シ本法ガ先程來田村君ノ言ハレマスル如ク、生命保險國營ノ前提トシテ提案サレタノデアルナラバ——尤モ此ノ點商工大臣ノ御説明ハ曖昧デアリマスガ、生命保險ノ國營ヲ前提トシテ御提案ニナツタモノトスルナラバ、假令一時タリトモ弱小會社ヲバ破産状態ニ陥レルヤウナ此ノ法案ノ改正ト云フモノハ考慮シナケレバナラスト思フ、何レ此ノ改正案ニ依ツテ不良會社ガ破産ノ状態ニ陥レラレルモノデアルト云フ説明ハ、次ノ質問ニ依ツテ私ハ明ニ致シマスガ、私考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

更ニ第二點トシテ伺ヒタコトハ、約款ニ關スル所ノ改正ノ今回ナカツタ點デアリ

マス、今回ノ改正ノ要點ハ、先程申上ゲマシタ如ク大體五點ニ分ツコトガ出來マスガ、其ノ一つトシテ政府ノ御聲明ニ依リマス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ之ヲ窺フコトガ出來ルノデアリマス、併シナガラ私共ガ此ノ改正案ヲ通讀スル時ニ於テ、悲シイ哉經營者ニ關スルモノガ主タルモノデアリマシテ、加入者ニ對スル所ノ改正、救濟ト云フコトハ殆ドナイノデアリマス、斯ク斷ジマシテモ私ハ決シテ過言デハ、ナイト思フノデアリマス、隨テ私ハ此ノ契約者保護ニ關スル改正規定ノ缺如ト云フコトニ付キマシテハ、多クノ不平ヒ不満ヲ持ス、斯ク斷ジマシテモ私ハ決シテ過言デハ、且ツ華麗極マル各社ノ堂々タル建築物ガアルコトデアルト思セマス、今試ミニ日比谷ノ原頭ニ立ツテ仰ギ見マスルナラバ、新築例ハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノ始メル時ニハ、時既ニ遅クテ如何トモ仕方ガナイ、遂ニ泣寝入ニ終ルト云フヤウナ事例ハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノアリマス、私考ヘマスルニ、所謂此ノ生業者ガ社會カラ非難ヲ受ケマス原因ハ、此ノ保険約款ヲ悪用ト申シマスカ、巧ニモ盛ニ之ヲ振廻スノデアリマス、契約者及ビ關係者ガ驚キマシテ、之ニ對スル檢討ヲスルノデアリマス、業者ハ之ヲ宜イコトニ致シマシテ、裁判上又裁判外ニ於キマシテヲ唯一ノ證據トシテ之ヲ採上げ、且ツ判定スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ信ズル、要スルニ此ノ業者間ノ不正不當ニ裁判所デハ如何ナル取扱ヲシテ居ルカトニ申シマスト、裁判所ハ此ノ社會ノ一般情勢實加人者ノ争ト云フモノハ、必ズヤ約款ニアルト言ハレル今日ノ實情デアリマス、然ルケナイ限りハ檢討スルハオロカ、讀ミ了ヘル人ハ稽有ノ事實デアリマス、隨テ業者ト考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

更ニ第二點トシテ伺ヒタコトハ、約款ニ關スル所ノ改正ノ今回ナカツタ點デアリ

マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノアリマス、私考ヘマスルニ、所謂此ノ生業者ガ社會カラ非難ヲ受ケマス原因ハ、此ノ保険約款ヲ悪用ト申シマスカ、巧ニモ盛ニ之ヲ振廻スノデアリマス、契約者及ビ關係者ガ驚キマシテ、之ニ對スル檢討ヲスルノデアリマス、業者ハ之ヲ宜イコトニ致シマシテ、裁判上又裁判外ニ於キマシテヲ唯一ノ證據トシテ之ヲ採上げ、且ツ判定スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ信ズル、要スルニ此ノ業者間ノ不正不當ニ裁判所デハ如何ナル取扱ヲシテ居ルカトニ申シマスト、裁判所ハ此ノ社會ノ一般情勢實加人者ノ争ト云フモノハ、必ズヤ約款ニアルト言ハレル今日ノ實情デアリマス、然ルケナイ限りハ檢討スルハオロカ、讀ミ了ヘル人ハ稽有ノ事實デアリマス、隨テ業者ト考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

更ニ第二點トシテ伺ヒタコトハ、約款ニ關スル所ノ改正ノ今回ナカツタ點デアリマス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノアリマス、私考ヘマスルニ、所謂此ノ生業者ガ社會カラ非難ヲ受ケマス原因ハ、此ノ保険約款ヲ悪用ト申シマスカ、巧ニモ盛ニ之ヲ振廻スノデアリマス、契約者及ビ關係者ガ驚キマシテ、之ニ對スル檢討ヲスルノデアリマス、業者ハ之ヲ宜イコトニ致シマシテ、裁判上又裁判外ニ於キマシテヲ唯一ノ證據トシテ之ヲ採上げ、且ツ判定スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ信ズル、要スルニ此ノ業者間ノ不正不當ニ裁判所デハ如何ナル取扱ヲシテ居ルカトニ申シマスト、裁判所ハ此ノ社會ノ一般情勢實加人者ノ争ト云フモノハ、必ズヤ約款ニアルト言ハレル今日ノ實情デアリマス、然ルケナイ限りハ檢討スルハオロカ、讀ミ了ヘル人ハ稽有ノ事實デアリマス、隨テ業者ト考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

更ニ第二點トシテ伺ヒタコトハ、約款ニ關スル所ノ改正ノ今回ナカツタ點デアリマス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノアリマス、私考ヘマスルニ、所謂此ノ生業者ガ社會カラ非難ヲ受ケマス原因ハ、此ノ保険約款ヲ悪用ト申シマスカ、巧ニモ盛ニ之ヲ振廻スノデアリマス、契約者及ビ關係者ガ驚キマシテ、之ニ對スル檢討ヲスルノデアリマス、業者ハ之ヲ宜イコトニ致シマシテ、裁判上又裁判外ニ於キマシテヲ唯一ノ證據トシテ之ヲ採上げ、且ツ判定スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ信ズル、要スルニ此ノ業者間ノ不正不當ニ裁判所デハ如何ナル取扱ヲシテ居ルカトニ申シマスト、裁判所ハ此ノ社會ノ一般情勢實加人者ノ争ト云フモノハ、必ズヤ約款ニアルト言ハレル今日ノ實情デアリマス、然ルケナイ限りハ檢討スルハオロカ、讀ミ了ヘル人ハ稽有ノ事實デアリマス、隨テ業者ト考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

更ニ第二點トシテ伺ヒタコトハ、約款ニ關スル所ノ改正ノ今回ナカツタ點デアリマス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ、蓋シ夥シイ數ニ上ツテ居ルト思フノアリマス、私考ヘマスルニ、所謂此ノ生業者ガ社會カラ非難ヲ受ケマス原因ハ、此ノ保険約款ヲ悪用ト申シマスカ、巧ニモ盛ニ之ヲ振廻スノデアリマス、契約者及ビ關係者ガ驚キマシテ、之ニ對スル檢討ヲスルノデアリマス、業者ハ之ヲ宜イコトニ致シマシテ、裁判上又裁判外ニ於キマシテヲ唯一ノ證據トシテ之ヲ採上げ、且ツ判定スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云マス、斯くノ契約者ノ利益ノ擁護ニアルコトハ信ズル、要スルニ此ノ業者間ノ不正不當ニ裁判所デハ如何ナル取扱ヲシテ居ルカトニ申シマスト、裁判所ハ此ノ社會ノ一般情勢實加人者ノ争ト云フモノハ、必ズヤ約款ニアルト言ハレル今日ノ實情デアリマス、然ルケナイ限りハ檢討スルハオロカ、讀ミ了ヘル人ハ稽有ノ事實デアリマス、隨テ業者ト考ヘマスルニ、政府ハ何故ニ此ノ際會社ヲ一齊ニ統一シテ、以テ國家管理ノ下ニ收容スル所ノ一大革斷ニ出ラレナカツタカト云此ノ點政府ノ率直ナル御答辯ヲ重ネテ要求致シテ置キマス。

員會ヲ設ケマシテモ、此ノ委員會ニ諮問致スコトハ色々ノ關係カラ穩カデナイト考ヘテ居リマス、デアリマスカラ、政府トシテハ此ノ委員會ニ掛ケル考ハ持ツテ居ラヌノデアリマス、併シナガラ一般的、基礎的事項ノ如キ問題ニ付テ、委員會ノヤウナ適當機關ヲ設ケマシテ、是デ審議ヲ致シマシテ、所謂獨善ノ弊ヲ避ケルコトニ付テハ十分考ヘタイト思ツテ居リマス、要スルニ御說ノ中ニアリマシタ諸點ハ御尤デハゴザイマスガ、此ノ委員會ニ掛ケマスト、勤モスレバ會社ノ内部事情ニ觸レテ參ル點が多イト考ヘマスノデ、政府ト致シマシテハ之ヲ避ケタイト思ツテ居ルノデアリマス。

第四回ト致シマシテハ、此ノ改正案ニ合併等ノ勸告ガアルガ、是ハ被監督會社ニ取ツテ洵ニ不都合ナ重大ナ問題デアル、是ハ不要デアルトノ御意見ニ基イテ御質問ガアツタノデアリマス、之ニ付キマシテハ、不幸ニシテ保険會社ガ其ノ經營ガ旨ク參リマセヌヤウナ場合ニ、其ノ形勢ガ豫メ見エルヤウナ場合ニハ、早イ中ニ處置ヲ致シマシテ、禍ヲ未然ニ防止シテ、契約者ノ保護ニ任ジタイト云フ精神カラ出テ居ルモノデアリマス、斯様ナ場合ニモ決シテ之ヲ公ニ取扱フノデハアリマセヌデ、極メテ祕密ノ中ニ適當ナ方法ヲ以テ事業者ニ御相談ヲ致シ、又必要ナル勸告ヲ致スコトガ適當デアルト考ヘマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ十分親切ナル適正ナル方法ヲ執ル積リデ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ只今斯ル條項ハ削除スベシト云フ御意見モアリマシタケレドモ、政府ト致シマシテハ、出來ルダケ弊害ヲ生ジナイヤウニ此條項ヲ定メタ譯デアリマスノデ、此ノ條項ハ契約者保護ノ上カラモ真ニ必要ナモノデアルト考ヘ第五ノ御質問ニ對シマシテハ、保険會社及ビ役員ノ兼業ヲ禁止スル規定ガアルガ、是ハ却テ宜シクナイ、或ハ無意味ナモノデアルト云フ點ニ付テ御質問ガアリマシタ、アルト云フ上ノ性質カラ申シマシテ、兼業ハ禁止致スベキモノデアルト考ヘマス、

○副議長(金光庸夫君) 松永義雄君
(松永義雄君等壇)

○松永義雄君 私ハ只今御提案ニナリマシタ保険業法改正法律案ニ付キマシテ、五點第一点云フコトニ付テハ、其ノ實際ニ即シテ最も適當ニ考ヘテ行カケレバナラヌト考其ノ效果ヲ擧ゲルヤウニ努メタイト、商工打合セノ上、國債ノ保有高ニ付キマシテハ十分其ノ増加ニ努メテ參ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、將來ニ付キマシテモ十分ニヘルノデアリマス、今日マデモ關係當局ト當局トシテ考ヘテ居ル次第デアリマス。

トキ、或ハ此處ヲ突イタラスウナルカモ知レヌ、彼處ヲ突イタラアアルカモ知レヌト云ツテ遲疑逡巡シテ居ツタナラバ、果シテ本當ノ整理統合ガ出來ルカドウカ、整理統合ノ出來ナイ前ニ破綻ヲ暴露シテ、保険契約者ニ迷惑ヲ及ボスヤウナコトハナインデアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモノハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激先程來線返シ御話アリマシタヤウニ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調查會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

サル意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイ第三ニ保険資金ノ運用ヲ長期建設ノ目的デアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調查會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

サル意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイ第三ニ保険資金ノ運用ヲ長期建設ノ目的デアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調查會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

サル意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイ第三ニ保険資金ノ運用ヲ長期建設ノ目的デアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調查會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

サル意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイ第三ニ保険資金ノ運用ヲ長期建設ノ目的デアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調査會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

サル意思ガナイカト云フコトヲ御尋シタイ第三ニ保険資金ノ運用ヲ長期建設ノ目的デアルカ、サウシテ大體此ノ保険會社ト云フモノガドウシテ斯ウ云フ風ニ、大キナモハ益、大キクナツテ行クカ、中以下ノ生命保険會社ハドウシテ駄目ニチツテ行クカ、激甚ナル競争ノ結果デアルト、斯ウ云フコトヲ言ハレタ、併シナガラ競争ノ激シイ此ノ保険會社ノ商賣ガ弱體會社ノ整理ニ依ツテ、競争ガ果シテ止マルカドウカト云フコトヲ考へマスル時ニハ、更ニ大キナ保険會社同士ノ競争ト云フモノモ想像ナレナイコトハナイ、而モ現在弱體會社或ハ大キナ保険會社三十三ヲ引括スマシテ、大小ノ會社ガ地方ニ持ツテ居リマス所ノ支店ノ數ト云フモノ、或ハ代理店ノ數ハ夥シイモノデアル、而モ三十万人ト云ツタ驚クベキ數ノ外交負ヲ使ヒマシテ、サウシテ保険ノ勸誘ニ歩イテ居ル、其ノ費用タルヤ實ニ莫大ナモノデアル、保険會社ヲ整理スレバ失業者ガ出ルト云ツテ心配サレタ時モアル、サリナガラ今日ニ於キマシテ、是ダケノ人の物的資源ト云フセノガ無駄ニ使ハレテ居ルト云フコトハ、而モ尙ホソレガ保険會社ニ取リマシテ、非常ニ大キナ經費ニナツテ現ハレテ來ル、保険會社ヲ國營ニスベジト云フ所ノ理論及ビ根據ニ付キマシテハ、幾多ノモノガザイマセウ、併ナガラ少クトモ今日茲ニ提案サレテ居リマス所ノ、保険業法案ノ提出ノ理由デアル整理統合シナケレバナラヌモノトシテ舉ガラレ居ルダケデ以テ、果シテ其ノ弱體會社ヲ救ヒ得ルカドウカト云フ點ニナリマスト、少クトモ此ノ弱體會社ノ保護及ビ其ノ存立ノ爲ニハ、ドウシテモ國營ニ持ツテ行カナケレバナラヌト云フコトニナルノデハナイト思フ（拍手）私ハ此ノ點カラ政府ニ對シテ國營ノ必要如何、尙且ツ國營ニスル爲ニ大調査會ヲ作ツテ、其ノ準備ヲナ

カキマシテモ是ガ輕減ニ付キマシテハ研究
致シテ居ルヤウナ次第アリマス、尙ホ是
ガ爲ニ資料ノ必要モアリマスルノデ、適正
ナル料率決定ノ資料ヲ取急イデ作成致シテ
居ルヤウナ次第アリマス、要スルニ此ノ
點ニ付キマシテハ善處ヲ致シタイト考ヘテ
居リマス

第二ニ此ノ法律ノ結果ハ、結局小會社ノ
整理ハ出來ナイノデアリマス、寧ロ國營トスベ
シト云フ點ニ付テ御話ガアリマシタ、勿論
此ノ改正法ニ依リマシテ十分監督指導ニ
努メマスカラ、保險ハ健全ナル發達ヲ遂
ゲルモノト確信ヲ致シテ居リマスルケレ
ドモ、尙ホ只今御述ニナリマシタル御趣旨
ニ付キマシテハ、十分此ノ運用ニ於テ
適正ヲ期シテ、其ノ足ラザルヲ補ヒタイ
ト思ツテ居ルノデアリマス、結局國營ニ付
テハ只今御述ニナリマシタコトハ、御同意ヲ
表スベキ點ガ多イノデアリマスケレドモ、
今日ノ所國營ノ問題ニ付キマシテハ、曩ニ
御答申上ゲタ通り御承知ヲ願ヒタイト思
ヒマス、又之ニ關シマシテ委員會ヲ設置ス
ルト云フコトニ付キマシテモ、隨ツテマダ
其ノ運ビニハ至ツテ居ラヌノデアリマス
第三ニ保險資金ノ運用ニ付テ御尋ガアリ
マシタ、是モ先程御答申上ゲタ點ニ御諒承
願ヒタインデアリマス、要スルニ保險ノ資
金ハ確實有利ナ運用ヲ期セナケレバナリマ
セヌノデ、此ノ點ニ付テハ政府ト致シマシ
テ有ニル方途ヲ考ヘマシテ、又其ノ事情ニ
即シマシテ最善ヲ盡シタイト思フノデアリ
マス、御意見ノ點ニ付キマシテハ、十分各
方面トモ慎重ニ考慮ヲ致シマスルト共ニ、
御述ニナリマシタ點ニ付キマシテモ、政府
トシテ既ニ研究中ノモノガ相當アルノデア
リマス、又長期資金ノ運用ニ付キマシテモ、
是モ先程御答申上ゲタ點ニ付キマシテモ、
此ノ點ニ付キマシテハ各方面ト協調ノ
上、善處致シタイト考ヘテ居リマス
第四間ノ國際收支改善ニ付キマシテノ御
尋ニ付キマシテハ、只今大藏大臣カラモ御
述ノアリマシタル通リデアリマス、要スル
ニ保險ノ危險分散ト云フヤウナ點カラ、之
に之

ニ反シマセヌ限リニ於キマシテハ、海外拂
ノ節約ニ努メシムル積リデアリマス、火災
海上再保險等ニ於キマシテ、再保險ノ「ブリ
ル」或ハ組合ト云フヤウナモノヲ結成致
シマシタ爲ニ、相當今日實效ヲ擧ゲテ居ル
コトモ御承知デアラウト思フノデアリマス
第五ノ應召者ニ對スル點ニ付キマシテガ、
是ハ約款ガ臨時召集ニハ拂ハヌコトニナツ
テ居リマス、乙種ニ拂ハヌノデアリマセ
ス、併シナガラ尙ホ是等ノ點ニ付キマシテ
ハ、政府ト致シマシテモ十分研究ヲ致シタ
イト考ヘテ居ル點ニアリマス(拍手)
○副議長(金光庸夫君) 是ニテ質疑ハ終了
致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉ニ付テ御詰り致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委
員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第六、臨時資金調整法中改正法律案ノ第一
條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ
ヲ加フ

第十三條中「二億圓」ヲ「五億圓」ニ改ム
第十六條中左ノ一號ヲ加フ
第五事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ
關スル事項

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ審査ヲ付託
圓ヲ限り其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂
ヲ保證スルコトヲ得

第十二條中「第四條」ヲ下ニ、「第四條ノ二」
ヲ加フ

○副議長(金光庸夫君) 本案ハ議長指名十八名ノ委
員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第六、臨時資金調整法中改正法律案ノ第一
條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ
ハ改良ヲ削リ同條ニ付シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ
命ズルコトヲ得

第十七條第二號中「設備ノ新設、擴張若
件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又
ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ
命ズルコトヲ得

第十八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可ヲ
受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二
シタル者

三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ
受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二
シタル者

○副議長(金光庸夫君) 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(國務大臣石渡莊太郎君登壇)

○副議長(金光庸夫君) 只今議題トナ
シタル者

○副議長(金光庸夫君) 本法ハ依リ設立又ハ資本増加ニ付
可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回

○副議長(金光庸夫君) 本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可
キ者ノ範圍ヲ改メ、個人及び公私法人ニモ

○副議長(金光庸夫君) 本法ハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ陸
接國境(之ニ接續スル領海ノ境界ヲ含
ム)ヨリスル人ノ出入ヲ禁止シ又ハ制
限スルコトヲ得

○副議長(金光庸夫君) 第二條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前
條ニ規定スル國境ニ接スル土地又ハ水
面ニ付區域ヲ定メ其ノ區域ニ付人ノ出
入ヲ制限スルコトヲ得

○副議長(金光庸夫君) 第三條 第一條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制
限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又
ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
帝國ノ利益ヲ害スル目的ヲ以テ前項ノ
罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處
ス此ノ場合ニ於テ其ノ犯罪ノ用ニ供シ
タル物ハ何人ノ所有タルヲ問ハズ之ヲ

没收スルコトヲ得

第四條 第二條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

外國ニ潜入スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣八田嘉明君登壇)

○國務大臣(八田嘉明君)只今上程セラレ

マシタ國境取締法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申シマス、近來朝鮮竝ニ樺太ニ於キマスル陸接國境ノ一部ヲ經マシテ帝國領域ニ出入スル者ガ尠カラズ存スルノデアリマスガ、斯ノ如キコトハ防諜上竝ニ公安上憂慮スベキコトニ考ヘラレルノデアリマス、右ノ實情ニ鑑ミマシテ、此ノ際該國境ノ取締ヲ嚴ニ致シ、防諜上竝ニ公安上遺憾ナキヲ期スルノ要アルモノト考ヘルノデアリマス、以上申述ベマシタル理由ニ基キマシテ、茲ニ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

開キマス——海軍大臣米内光政君

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八、軍用資源祕密保護法案ノ第一讀會ヲ開キマス

第八 軍用資源祕密保護法案 (政府提出)

軍用資源祕密保護法案 (第一讀會)

第一條 本法ハ國防目的達成ノ爲軍用ニ供スル(軍用ニ供スベキ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)人財及物的資源ニ關シ外國ニ

國ニ祕匿スルコトヲ要スル事項ノ漏泄ヲ防止スルヲ以テ目的トス

第一條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣)ハ左ニ掲グ

犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

外國ニ潛入スル目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣八田嘉明君登壇)

○國務大臣(八田嘉明君)只今上程セラレ

マシタ國境取締法案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御説明申シマス、近來朝鮮竝ニ樺太ニ於キマスル陸接國境ノ一部ヲ經マシテ帝國領域ニ出入スル者ガ尠カラズ存スルノデアリマスガ、斯ノ如キコトハ防諜上竝ニ公安上憂慮スベキコトニ考ヘラレルノデアリマス、右ノ實情ニ鑑ミマシテ、此ノ際該國境ノ取締ヲ嚴ニ致シ、防諜上竝ニ公安上遺憾ナキヲ期スルノ要アルモノト考ヘルノデアリマス、以上申述ベマシタル理由ニ基キマシテ、茲ニ本法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ審査ヲ付託スペキ委員ノ選舉ニ付テ御詔り致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

開キマス——海軍大臣米内光政君

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ

マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第八、軍用資源祕密保護法案ノ第一讀會ヲ開キマス

第八 軍用資源祕密保護法案 (政府提出)

軍用資源祕密保護法案 (第一讀會)

資ノ貯藏命令等ニ係ル貯藏計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

此等ヲ表示スル圖書物件

全國若ハ一地方又ハ重要ナル港灣ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ輸入額及政府ノ決定シタル輸入計

畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル特殊技能者其ノ他ノ重ナル人

的資源ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

八 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル航空機自動車又ハ馬ノ總數又ハ

種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

九 軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ輸送能力及輸送能力判定資料タル輸送

能力ノ總數(之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同ジ)及政府ノ決

定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

三 兵器ヲ生產スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該兵器ノ生產額、生產能力竝ニ生

產能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數(之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ種類別數竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

十 軍用ニ供スル重要ナル飛行場又ハ其ノ附屬設備ニ關スル重要ナル記錄

十一 軍用ニ供スル船舶ニ於ケル特殊設備ニ關スル重要ナル記錄

十二 軍用ニ供スル重要ナル通信連絡系統及其ノ通信能力、此等ヲ表示スル圖書物件竝ニ軍用ニ供スル重要ナル通信設備又ハ其ノ設備ニ關スル通信能力

十三 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ委囑ニ依ル重要ナル試驗研究又ハ軍事上祕匿ヲ要スル發明考案ニ關スル事項及圖書物件

十四 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ重要ナル事項及圖書物件

十五 軍事上祕匿ヲ要スル第二號乃至第五號及第九號乃至第十二號ニ

規定期限内に試驗研究ニ關スル設備、此等ノ機構及性能

十六 第八條 政府ハ第二條第二號又ハ第五條

號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ祕匿スル

ノ特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ法令ニ基ク出願、申請、報告、届出等ヲ爲シ又ハ立入、検査、質問等ヲ受クル場合ニ付軍用資源祕密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

スルコトヲ得

第七條 政府ハ軍用資源祕密ヲ祕匿スル

ノ特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ軍用資源祕密ヲ記載スル登記簿ノ閲覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

軍用資源祕密ニ關シ政府ノ公表シタルモノアルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ

其ノ内容ト爲リタル部分ニ限り其ノ指

定ノ解除アリタルモノト看做ス

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ニ屬スル

圖書物件ニ一定ノ標記ヲ附セシムルコトヲ得

第五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ其ノ管理著又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スル必

要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第六條 陸軍大臣又ハ海軍大臣(官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣)ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ其ノ管理著又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スル必

要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第七條 政府ハ軍用資源祕密ヲ祕匿スル

爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ヲ記載スル登記簿ノ閲覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得

スルコトヲ得

第八條 政府ハ第二條第二號又ハ第五條

號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ祕匿スル

爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ法令ニ基ク出願、申請、報告、届出等ヲ爲シ又ハ立入、検査、質問等ヲ受クル場合ニ付軍用資源祕密ノ開示又

ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

スルコトヲ得

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條

ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理著又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必

要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第

五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第三條 軍用資源祕密トシテ祕匿スル要キニ付テハ其ノ指

定ヲ解除ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル者ニヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第十一条 外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ収集シタル者ハ十年以下ノ徵役ニ處スル反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處スル業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ一年以上ノ有期徵役ニ處スル外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ収集シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ一年以上ノ有期徵役ニ處スル前項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ二千圓以下ノ罰金ニ處スル前項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ徵役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處スル第十二条 第二條第二號又ハ第十五条ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十三条 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ二年以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル前項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ徵役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處スル第十四条 第二條第二號又ハ第十五条ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ六年以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十五条 軍用資源秘密ヲ外國又ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ徵役ニ處スル者ニ漏泄シタルトキハ六年以下ノ徵役ニ處スル第十六条 制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ徵役ノ規定ニ依ル

又八五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十七条 第五條ノ規定ニ依ル命令ニ處スル反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處スル業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十八条 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入若ハ検査ヲ拒ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十九條 第十一條及第十二条ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
第二十一条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル主ノ家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ代理人、戸籍置ヲ命ぜラレタル者ハ其ノ代理人、戸主ノ家庭、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十二条 第十七条及第十八条第二項ノ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル者ガ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三条 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズキハ之ヲ適用スル者ニ未だ十分トハ申シ得テイノデアリマシテ、此ノ際ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十四条 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムハ之ヲ適用スル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公示ニシタルトキハ之ヲ妨げズ
第二十五条 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ム所ニ依ル

（國務大臣米内光政君登壇）○國務大臣（米内光政君）只今上程セラレマシタ軍用資源秘密保護法案ノ提出理由ヲ反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入簡單ニ説明申上ゲマス、今日ノ戰争ガ所謂國家總力戰デアリマスコトハ、今更申上グル九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十九條 第十一條及第十二条ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
第二十一条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル主ノ家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ代理人、戸籍置ヲ命ぜラレタル者ハ其ノ代理人、戸主ノ家庭、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十二条 第十七条及第十八条第二項ノ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル者ガ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三条 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズキハ之ヲ適用スル者ニ未だ十分トハ申シ得テイノデアリマシテ、此ノ際ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十四条 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムハ之ヲ適用スル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公示ニシタルトキハ之ヲ妨げズ
第二十五条 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ム所ニ依ル

（國務大臣米内光政君登壇）○國務大臣（米内光政君）只今上程セラレマシタ軍用資源秘密保護法案ノ提出理由ヲ反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入簡單ニ説明申上ゲマス、今日ノ戰争ガ所謂國家總力戰デアリマスコトハ、今更申上グル九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十九條 第十一條及第十二条ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
第二十一条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル主ノ家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ代理人、戸籍置ヲ命ぜラレタル者ハ其ノ代理人、戸主ノ家庭、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十二条 第十七条及第十八条第二項ノ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル者ガ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三条 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズキハ之ヲ適用スル者ニ未だ十分トハ申シ得テイノデアリマシテ、此ノ際ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十四条 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムハ之ヲ適用スル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公示ニシタルトキハ之ヲ妨げズ
第二十五条 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ム所ニ依ル

（國務大臣米内光政君登壇）○國務大臣（米内光政君）只今上程セラレマシタ軍用資源秘密保護法案ノ提出理由ヲ反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入簡單ニ説明申上ゲマス、今日ノ戰争ガ所謂國家總力戰デアリマスコトハ、今更申上グル九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十九條 第十一條及第十二条ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
第二十一条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル主ノ家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ代理人、戸籍置ヲ命ぜラレタル者ハ其ノ代理人、戸主ノ家庭、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十二条 第十七条及第十八条第二項ノ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル者ガ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三条 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズキハ之ヲ適用スル者ニ未だ十分トハ申シ得テイノデアリマシテ、此ノ際ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十四条 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムハ之ヲ適用スル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公示ニシタルトキハ之ヲ妨げズ
第二十五条 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ム所ニ依ル

（國務大臣米内光政君登壇）○國務大臣（米内光政君）只今上程セラレマシタ軍用資源秘密保護法案ノ提出理由ヲ反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入簡單ニ説明申上ゲマス、今日ノ戰争ガ所謂國家總力戰デアリマスコトハ、今更申上グル九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲シタル者又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ問ニ對シ答辯ヲ爲シタル者ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處スル第十九條 第十一條及第十二条ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二十条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス
第二十一条 第一條、第十五条又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未だ官ニ發覺セザル主ノ家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ代理人、戸籍置ヲ命ぜラレタル者ハ其ノ代理人、戸主ノ家庭、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七条又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十二条 第十七条及第十八条第二項ノ罰則ハ其ノ者が法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル者ガ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三条 本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズキハ之ヲ適用スル者ニ未だ十分トハ申シ得テイノデアリマシテ、此ノ際ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
第二十四条 軍用資源秘密ハ勅令ノ定ムハ之ヲ適用スル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公示ニシタルトキハ之ヲ妨げズ
第二十五条 軍用資源秘密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及秘匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ム所ニ依ル

ガ、此ノ場合ニ於テ我が北海道ハ「バルブル」或ハ石炭液化、硫安等八項目ノ重要工業竝ニ其ノ他軍需資材ノ供出ノ重大ナル任務ヲ持ツニ至ツタモノデアリマス、此ノ國策ニ對應シテ拓殖計畫ニ於テモ、其ノ國策ノ一端ヲ負擔シ、明十四年度ニ拓殖費ノ豫算ノ中幾分カノ經費ガ計上サレテ居ルコトハ認メルモノデアリマスガ、併シ其ノ豫算ハ主トシテ直接の生産事項ヲ計上セルモノニ過ギナインデアリマシテ、資源ヲ開發シ、產業ヲ振興スベキ基礎資源トシテ、何等認メルコトガ出來ナイノミナラズ、土木交通ノ經費、例ヘバ道路港灣橋梁、其ノ他礦業港ノ必要ナルコトハ今ヤ議論ノ必要ハノ重要ナル資源開發ノ基礎トナルベキ經費ガ、前年度ヨリ縮小シテ居ルト云フニ至ツテハ、言語道斷ト言ハザルヲ得ナイ、而モ礦業港ノ必要ナルコトハ今ヤ議論ノ必要ハゴザイマセヌガ、政府自ラモ之ヲ認メテ居リナガラ、其ノ經費ハ僅ニ二万圓ヲ計上シテアル、九州ノ苅田港ノ如キハ既ニ石炭積出港トシテ、十四年度ヨリ之ニ著手シテ居ルデハアリマセヌカ、殊ニ我が北海道ニケル北天鹽炭田ノ埋藏量ノ如キハ、實ニ二十億噸ヲ算セラレルト言ハレテ居リマス、此ノ開發ニ對シテ必然起ルベキモノハ港灣ノ施設デアル、是等石炭輸出港ハ我が北海道ノ開拓ニ付キマシテハ、必須條件デナケレバナラヌ、ソレニモ拘ラズ現在ノ儘拓殖計畫ノ改訂ヲ其ノ儘放任シテ置クト云フコトハ洵ニ遺憾トスル者デアリマス、政府ハ斯ル時局ニ於テ重大ナル役割ヲ演ジツツアル所ノ北海道ノ拓殖計畫ヲ如何ニ見ントシテ居ルカ、拓殖改訂ノ趣旨ハ斯ル北海道ノ資源開拓ヲ目的トスルモノデハアリマス、ミカ、政府ハ此ノ際宜シク拓殖計畫改訂ノ趣旨ヲ尊重シ、此ノ問題ヲ如何ニ取扱フカト云フコトニ付キマシテ、私ハ再検討ヲ要スルモノデアルト信ズル者デアリマス、之ニ對スル内務大臣ノ確信アル御答ヲ戴キタ伊ト思ヒマス、同時ニ東亞建設遂行上焦眉ノ急デアリマスモノハ、生產力ノ擴充デア

ノ均衡上資源ヲ開發シ、資源ノ自給ハ政府ノ當然執ルベキ所デアル、此ノ資源ノ賣庫タル、又資源ノ賣庫ノ鍵トモ言フベキ北海道ノ拓殖計畫再検討ニ對シテ、大藏大臣如何ナル考ヲ御持チナツテ居ラツシヤルカ、之ニ對スル御答辯ヲ戴キタイト思ヒマヌス、更ニ又拓殖計畫改訂調査會中附帶決議トシテ提案シテアリマス所ノ、前段ノ六百五十万圓ノ土功組合ノ救濟費ヲ、拓殖計畫ノ實現ニアラズシテ若シ現在ノ儘行クトレスベ、此ノ土功組合ノ救濟ニ對シテハ、内務大臣ハ如何ナル方法ヲ以テ行ハレルカ、之ヲ御聽キシタイト思ヒマス

更ニ本法ニ何故強制力ヲ持クセナカツタカ、本法ノ改正ノ主眼トスル所ハ先程申シマシタヤウニ、組合ノ合併ニ依ツテ統制ヲ圖リ、以テ組合ノ經費ヲ低減スルト云フコトハ言フマデモナイ、凡ソ組合ノ合併ハ少クトモ同程度ノ條件ニアラザレバ合併出来ルモノデナイト私ハ思フ、併シナガラ本法ニ強制力ノナキ場合、其ノ合併ヲ以テ利益ヲ生ズルト言ヒナガラ、時ニハ組合ノ感情問題或ハ部落根性、其ノ他經濟關係等ニ付テ容易ニ合併ヲ致サヌモノデアルト私ハ思フ、若シ此ノ場合強制力ガナカツタナラバ、折角法律ハ作ツモ何等廢置不分ノ實ガ擧ラナイト云フコトニナル、例ヘバ灌漑溝ノ共用ノ如キハ、兩組合ガ若シ利益ガ得ラレルナラバ、民法上ノ規定ニ於テ「ツノ契約ヲ作ツテ、サウシテ合併スルコトガ出來ルト私ハ考ヘル、所謂之ヲ申シマスナラバ、現在計畫サレテ居リマスモノハ、水利ノ統制ヲ目標トスル、或ハ工作物ノ整理共用、組合經營費ノ低減、不良ナル土功組合ノ更生ヲ圖ルコト、水利ノ統制、工作物ノ整理共用等ノ方法ニ依ツテ、是等組合ニ利益ヲ齎ス場合、或ル一方ノ組合ガ之ヲ肯ゼザル場合ニ於テ、是ガ實行スルコトが出來ルノデアルカ、私ハ此ノ點ニ付テ内務大臣ノ意見ヲ伺フ者デアリマス

最後ニ私ハ本法改正ニ當ツテ更ニ一步ヲ

條件、社會條件並經濟條件カラ見テ、本
稱經營上ノ負擔限度以上ノモノノ負擔金ハ、
之ヲ國庫ガ負擔スルト云フコトヲ考ヘナカ
ツタカト云フコトデアリマス、之ニ付キマ
シテ私ハ一ツノ例ヲ申上ダマスト云フト、
天鹽川ノ上流ニ六ツノ組合ガアリマス、三
ツノ組合ガ先ニ出来マシテ、ソレガ先願敷
シマシタ、所ガ水量ガ非常ニ不足ノ爲ニ、
政府ハ貯水池ヲ造ラナケレバ認可シナイト、
云フノデ、川ノ源流デアル山ノ中ニ入ツテ、
三ツノ貯水池ヲ數十万圓ヲ投ジテ造ツタノ
デアリマス、然ルニ自然流下ヲ溝路ト致シ
テ居リマス爲ニ、渴水期ノ場合貯水池ヲ放
流致シマシテモ、金フ掛ケタ組合ノ水田ニ
ハ下流デアル爲ニ水ガ入ツテ來ナイ、先ニ
権利ヲ取ツタ方ノ組合ノ水田ニ水ガ入ツテ
行クノデアリマス、斯ウ云フヤウナ不合理、
而モ渴水期ニ於テ水ヲ湛ヘテ居ル所ノモノノ
ハ、ソレハ負擔が非常ニ輕イ、何倍ト云フ
負擔ノ重イ方ノ田面ニハ稻ガ枯死セントス
ル、此ノ枯死セントスル稻ヲ眺メタ所ノ農
民ノ心事ハドウデアリマセウカ、退廳時間
ヲ時計ノ針ト睨ミ合ツテ居ル役人ニハ、此
ノ心事ヲ解スルコトハ斷然出來ナイト思ヒ
マス(拍手)私ハ此ノ場合ニ於テ同一水系河
川ヲ一組合ニシテ、負擔限度以上ノモノハ、
國庫ガ之ヲ負擔スベシト叫ブ者デアリマス、
斯ク申シマスコトハ、先程ノ強制力ヲ持タ
セルト云フコトト、同一水系河川ヲ一組合
トスルト云フコトハ、是ハ唇齒輔車ノ關係
デアツテ、必らず合理的ニ經營セヨト言ツテ、
政府ハ此ノ合併ヲセシメル一方ニ於テハ、
負擔限度以上ノモノハ政府ガ負擔スルト云
フコトガ権利義務兼備ノ方法デハナカラウ
カト私ハ信ズル、現在農村ノ思想ガ悪化ス
ルトカ、銃後ノ思想ガ色々ト憂慮サレルトカ
カ云フコトデ、國民精神總動員デアルトカ、
其ノ他政府ノ大官ガ講演サレテ居リマスガ、
斯ウシタコトヲ其ノ儘ニ抑ヘテ置イテ、如
何ニ聲ヲ喰ラシテ國民精神總動員ヲヤラレ
テモ、何等國民精神ハ緊張スルモノデハナ
イ、現内閣ハ所謂總親和總努力、其ノ大旗

ヲ掲ゲテヤツテ居ラレルデアリマスカ
若シ此ノ大旗ヲ掲ゲテ進ムナラバ、心カラ
民ガ一丸ニナル施設ヲスル所ニ政府ノ指道
原理ガアツテ欲シイ、之ニ付テノ内務大臣
ノ御意見ヲ伺フ者デアリマス
凡ソ國ガ土地ヲ開ク場合、交通ニ、治水ニ
或ハ土地改良ニ、又ハ農業上ニ於テハ本邦
ノ開拓北進ヲセントスルニ當ツテハ、先づ
育種學上ニ於ケル確定的品種ヲ試驗場ニ拵
テ、農民ニ示シ指導スルノガ當然デアルガ
是ガ缺ケテ居ツタ、又經濟機構上ノ缺陷ヲ
アツタデアリマセウ、北海道ニ於ケル所ノ
水稻栽培ノ限界線ハ自ラ決ツテ居ル、所謂
其ノ線ハ科學的ニ決ツテ居ル筈ノモノデアル
シメタ所ニ、今日ノアノ悲慘事ヲ繰返シタノゴ
アル、故ニ私ハ此ノ不適地ニ對シマシテハ、農
業者ノ經濟的ニ負へル所ノ破産の苦境ヨリ
脱出セシメナケレバナラヌと思ヒマス、本
來ナラバ灌漑溝ノ幹支線ハ、當然國庫ガニ
辨スペキモノニアルト私ハ存ジマスガ併シ
ソレガ出來ナカツタナラバ、前段申上ゲマ
シタ六百五十万圓ノ特別助成金ト云フモノ
ハ、當然之ヲ認メナケレバナラナイモノゴ
アルト私ハ思フ、更ニ不適地トシテ目下烟
ニ還元シテ居ル所ノ部分ニ對シマシテハ、
當然組合地區カラ之ヲ除外スペキモノニア
ルト私ハ信ズル、私ノ血液ハ其ノ大部分が
亞寒帶農業ノ土ニ依ツテ出來タモノデアリ
マス、此ノ亞寒帶農業ノ誤レ農政ヲ是正
スルコトハ、私ノ義務ト責任デアルト思ツ
テ居リマス（拍手）私共ノ仲間ヲ此ノ苦境ガ
ラ救フコトガ私ノ責任デアルト思ヒマス（拍
手）内務大臣ハ北海道ヲ能ク御視察ニナリ
マスマイガ、斯ウシタ苦境ノ中ニアル所ニ
三十万人ノ農民ガアルト云フコトヲ知ラ
タナラバ、此ノ國策ヲ是正スル爲ニ大臣ノ
確信アル御答覆ヲ私ハ此處デ御願スルト同
時ニ、滿場ノ諸君ニ北海道ニハ斯ル耕作地
域ガアルト云フコトノ御同情ヲ賜リマシテ、
御支援賜ランゴトヲ御願致シマス（拍手）

〔國務大臣候爵木戸幸一君登壇〕

○國務大臣(侯爵木戸幸一君) 松浦サンニ
御答致シマス、御尋ノ第一ハ北海道ノ拓殖
計畫調査會ニ於キマシテ決定致シマシタ凶
作對應ノ特別助成ヲ實現スル意思ハナイノ
カト云フ御尋デアリマシタ、北海道ノ其ノ
後ノ作況ハ累年順調ニ參リマシテ、米價モ
安定シテ參リマシタノデ、土功組合ノ經營
ノ條件ハ好轉致シテ來テ居ルノデアリマス、
隨ヒマシテ大部分ノ組合ニ付キマシテハ、自
力ニ依ツテ堅實ナル經營ヲ致スヤウナ指導
ヲ致シテ參リタイト存ジテ居リマス、尤モ
一部分ニハ經營困難ナモノゴザイマス、
是等ニ對シマシテハ特別助成案ニ於ケルガ
如キ方法ニ依リマセヌデモ、大體ニ於キマ
シテ必要ナル土地改良施設ヲ實施セシムル
爲ニ、事業費ノ補助ヲ潤澤ニ致シマシテ、
生産ノ増殖ヲ圖リ、組合員ノ負擔力ノ增加
ヲ圖リマスト同時ニ、組合經營ニ付テハ十分
ニ指導致シマシテ、辟固タル更生計畫ヲ樹
考ハナイカト云フ御尋デゴザイマス、今日
ノ時局ニ依リマシテ北海道ノ各種重要產業
ガ振興シツツアリマスコトハ御説ノ通りデ
アリマス、隨テ拓殖計畫自體ニ於キマシテ、
是等ノ事態ニ適應スル諸般ノ施設ヲ充實ス
ル必要ガアルコトハ考ヘラレルノデアリマ
シテ、現ニ前年度、本年度等ノ豫算ニ於キ
マシテモ、ソレ等ノ方ニ考慮ヲ加ヘマシテ
編成致シテ居ル次第アリマス、而シテ本
年度ノ豫算ノ如キハ相當ノ増額ヲ加ヘテ居
リマスノデ、尙ホ今後北海道ノ各種產業ガ
振興致シマスレバ、自然ソレ等ノ方面ニ向
ツテ更ニ力ヲ致ス餘地ガ、出來テ來ルダラ
ウト考ヘテ居リマス、唯拓殖計畫ヲ根本的
ニ改訂スルト云フ問題ニ付キマシテハ、財
政上ノ關係モゴザイマスシ、又時局ノ推移
等ヲ暫ク見ル必要モアリマスノデ、十分慎
重ニ考慮シナケレバナラヌ點デアルト考ヘ
テ居リマス

○ソレカラ次ハ組合ノ分合ニ強制手段ヲ用
ヒナケレバ所期ノ目的ハ達セナインデハナ
イカト云フ御尋デアリマシタガ、組合ハ元
來共通ノ利害ヲ有スル者ガ共同ニ事業ヲ營
マンガ爲ニ集ツテ居ル施設デアリマシテ、
其ノ實情カラ見マシテモ、必ズシモ強制手
段ヲ執ラナケレバ目的ヲ達シ難イヤウニハ
考ヘテ居リマセヌノデ、監督官廳ノ指導ニ
依リマシテ、其ノ實現ヲ期スルコトガ適當
デアリ、又ソレデ十分ニ目的ヲ達シ得ラレ
ルモノト考ヘテ居リマス

最後ニ御尋ノ負擔ノ均衡ヲ得ナイモノニ
對シテハ政府ヨリ助成金ヲ出スノ意思ハナ
イカト云フ御尋デゴザイマシタガ、此ノ問
題ハ必ズシモ政府ガ助成金ヲ出シマセヌデ
モ、元來組合經營ノ合理化ヲ致シマスナラ
バ、ソレ等ノ點モ相當ノ整理ガ付ク筈デア
リマスノデ、只今ノ所モ助成金ヲ出スト云
デアリマス、尙ホ細カイ點ニ付テハ委員會
等ニ於テ、十分御説明ヲシタイト考ヘテ居
リマス(拍手)

○(政府委員矢野庄太郎君登壇)
○政府委員(矢野庄太郎君) 松浦君ノ大藏
大臣ニ對スル御質疑ハ、時節柄沟ニ御尤ト
存ジマスルノデ、政府ニ於テモ北海道拓殖
計畫ノ再検討ニ付テ、篤ト研究ヲ致シタイ
ト存ジマス

○副議長(金光庸夫君) 松尾孝之君

○松尾孝之君 私モ此ノ法案ニ付キマシ
テ、前者ノ質問ト重複ヲ避ケマシテ、極メ
テ簡単ニ二三ノコトヲ御尋シテ見タイト思
ヒマス

○(松尾孝之君登壇)
○北海道土功組合法ハ明治三十五年ノ制定
ニ係ルモノデアリマシテ、其ノ後一小部分
ニ回ノ改正ガ行ハレテ居リマス、而シテ今
回ノ改正ハ從來無カツタ組合ノ合併ヲ認メ
ヨウトスルモノデアツテ、是ハ丁度府縣ニ
合ト同ジャウナ途ヲ開カントスルモノデア
リマシテ、私ハ之ニ付テハ適切ナル改正ダ

ト思ツテ居リマス、隨テ本案ニ付テハ固ヨ
リ異議ヘアリマセヌガ、唯一點此ノ法文ノ
中ニアリマス所ノ「組合ノ廢置分合又ハ地
區ノ變更ハ總會ノ議決又ハ組合ノ協議ニ依
リ」トアリマス、此ノ文面カラ言ヘバ、總
會ノ決議ニ依ツテモ宜シイシ、或ハ協議ニ
依ツテモ宜シイト云フ風ニモ見ラレルノデ
ゴザイマス、此ノ點洵ニ曖昧デアツテ、聞
ケバ貴族院ニ於キマシテモ、此ノ點ニ付
色々ノ質疑應答ガ交サレタサウデアルケレ
ドモ、一體此ノ協議ニ依ルト云フコトハ、
組合ト組合トノ合併ノ場合ニ依ルノデアラ
ウト思ヒマスガ、然ラバ其ノ協議ヲナスニ
付テハ、ドウ云フヤウナ方法デヤルカ、理
事者ガ協議ヲスレバ宜イノカ、或ハ委員ヲ
選舉ガテ協議ヲスベキデアルカ、此ノ點ヲモ
ソレカラ先刻松浦君モ申サレマシタ幹線
支線、之ニ對シテ當然是ハ國家が負擔スベ
キモノデアルト云フコトハ、是ハ異論ハゴ
ザイマセス、之ニ對シテ内務大臣ハ御答ガ
ウ少シハツキリ説明ヲ願ツテ置キタイト思
ヒマス

ソレカラ此ノ機會ニ土功組合ノ將來ニ於
ケル強化ト云フ觀點カラ、極ク簡単ニ次ノ
コトニ付キ、政府ノ御意見ヲ伺ツテ置キタ
イト思ヒマス、本法ニ依ル土功組合ハ、現
在大小合セテ二百四十餘アル筈デアリマス、
其ノ中ニハ基礎ガ鞏固デ相當ノ成績ヲ舉ガ
ルノデアリマス、之ヲ本當ニ救濟シテ、サ
ウシテ眞ニ寒地ニ於ケル所ノ農民ノ生活ヲ
安定セシメテ、以テ明治天皇ノ御聖旨ニ
基ク所ノ、北方開發ノ實ヲ擧ゲシムルト云
デ、所謂要救濟組合、弱體組合ガ相當ニア
ルノデアリマスガ、之ヲ除外シ整理セシ
一旦水田ニシタモノヲ畑地ニ還元シタモノ
ガ相當アル筈デアリマスガ、此ノ還元シタモノ
ノ土地ヲ依然トシテ土功組合ノ中ニ置クト
云ブコトハ、其ノ農民ノ負擔ト云フモノハ
容易デアリマセヌガ、之ヲ除外シ整理セシ
ムル御意思ガアルカドウカ、大體以上ノ通
リデアリマシテ、其ノ理由ヲ誇々申シマス
ト、時間ヲ要シマスカラ省略致シマスガ、
之ヲ要スルニ北海道ハ第二期拓殖計畫ガ先
年改訂セラレマシテ、未ダ其ノ半バデアリ
マス、即チ拓殖ノ道程ニアルノデアリマシ
テ、農民ノ資力等ニ於テモ、府縣ノソレト
比較シテ著シク低イト謂ハネバナリマセ
ヌ、又寒地ノ例ト致シマシテ、三年或ハ四
年目ニ一回ノ冷害凶作ガ見舞ツテ來ルノデ
アリマス、撫テテ加ヘテ土功組合自體ガ多
額ノ負債ニ喘イデ居ルモノガ相當アルノデ
アリマシテ、北海道農民ノ負擔ガ著シク他
ノ府縣ノ農民ノ負擔ヨリモ重イト云フコト
ニ付テハ、是ハ一般ノ方々ノ十分ナル御認
識ト御同情ヲ仰ギタイト思ヒマスガ、是ト
テヤラナケレバナラナイト思ヒマス、仍テ

以上ノ數點ニ付キマシテ此ノ際政府ノ所
ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス(拍手)
○國務大臣(侯爵太戸幸一君) 松尾サンノ
御質問ニ御答ヲ申上ダマス、土功組合ノ今
後ノ強化發展ノ爲、政府ハ如何ナル方針ヲ
持ツテ居ルカト云フ御尋デアリマス、土功
組合ノ發展ニ付キマシテハ、大體ニ於テ從
來ノ方針ノ通り拓殖費ノ補助ニ依リマシテ
土地ノ改良ヲ完成セシメマシテ、生産ノ増
加ヲ圖ルノ外、尙ホ今回ノ法律改正ニ依リ
マシテ、ソレドク其ノ事情ニ應ジタル分割
併合等ヲ行ハセマシテ、組合ノ經營ノ合理
化ヲ圖ツテ、十分其ノ機能ヲ發揮サセタイト
考ヘテ居リマス、ソレカラ次ニ土地改良費
ノ補助ノ増額ヲスル意思ハナイカト云フ御
尋デゴザイマスガ、此ノ點ニ付キマシテ
先程モ申上げマシタヤウニ、特別助成八今
日直チニ行ヒマヌノデ、主シテ此ノ土
地改良費ノ補助ヲ十分ニ致シマシテ、サウ
シテ組合ヲシテ十分機能ヲ發揮サセタイト
考ヘテ居リマスガ、其ノ點ニ付テハ十分考
慮ラ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ
先程松浦サンノ御尋モゴザイマシテ申シ落
シタノデゴザイマスガ、灌漑溝ノ幹線支線
ノ工事ノ補助ハ、從來補助ヲ以テ之ヲ施行
サセテ居リマスルガ、今日政府ト致シマシテ
ハ、其ノ方針ヲ變ヘテ國營デ施行スルト云
フコトハ考ヘテ居ラナイノデゴザイマス、
次ニ水田ガ往年ノ冷害ニ依リマシテ畑ニ還
元シタモノニ對スル處理方針ニ付テ御尋デ
ゴザイマシタ、水田ガ畑ニ還元致シマシタ
主ナル原因ハ、先程御話ノ通り昭和六七年
以來ノ連續シタ凶作ニ刺戟セラレテ起ツタ
一つノ現象デアリマス、其ノ後冷害克服ノ
諸施設ニ力ヲ致シマシタコトト、一面最近ノ
作況ガ順調デアリマシテ、米價ノ安定を得
ラレルヤウニナリマシタノデ、漸次水田ニ
復歸シツヴァル現況デアリマス、故ニ今後
一段ト土地改良ノ上ニ力ヲ致シマシテ、水
田ノ耕作上ノ不安ヲ除ク考デ居リマス、尙
ホ總會ノ協議、議決ト云フヤウナ問題ニ付

○副議長（金光庸夫君）　是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員會ノ選擧ニ付テ御諮詢致シマス
○服部崎市君　本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス
○副議長（金光庸夫君）　服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長（金光庸夫君）　御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第一、公證人法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——司法政務次官倉元要一君
第二、公證人法中改正法律案（政府提出、貴族院送付）
公證人法中改正法律案（第一讀會）
公證人法中改正法律案
第一條中「公正證書ヲ作成シ及私署證書ニ認證ヲ與フルノ權限」ニ改ム
第二十五條第一項中「證書ノ原本、其ノ附屬書類及」ヲ「證書ノ原本及其ノ附屬書類、私署證書ニ認證ヲ與ヘ竝商法第六百六十七條及其ノ準用規定ニ依リ定款ニ認證ヲ與フルノ權限」ニ改ム
第六十二條ノ三第三項ノ規定ニ依リ公證人ノ保存スル定款及其ノ附屬書類並ニ改ム
第六十二條ノ二　商法第六百六十七條及其ノ準用規定ニ依ル定款ノ認證ノ事務ハ會社ノ本店ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ所屬公證人之ヲ取扱フ
第六十二條ノ三　前條ノ認證ノ囑託ハ定款ニ通ヲ提出シテ之ヲ爲証言コトヲ要ス
公證人前條ノ認證ヲ與フルニハ囑託人ヲシテ其ノ面前ニ於テ定款各通ニ付其ノ署名又ハ記名捺印ヲ自認セシメ其ノ旨ヲ之ニ記載スルコトヲ要ス
公證人ハ前項ノ記載ヲ爲シタル定款ノ中一通ヲ自ラ保存シ他ノ一通ヲ囑託人ニ還付スルコトヲ要ス
第五十八條第三項及第五十九條乃至第

第六十一條ノ規定ハ第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
キ證書、市區町村長、警察官吏又ハ領事ノ證明書、第三者ノ許可又ハ同意ヲ證スヘキ證書其ノ他ノ附屬書類ハ前條第三項ノ規定ニ依リ公證人ノ保存スル定款ニ之ヲ連繕スヘシ
第四十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十二條ノ五 第六十二條ノ三第三項ノ規定ニ依リテ保存スル定款滅失シタルトキハ公證人ハ囑託人ニ還付シタル定款ニ依リテ謄本ヲ作成シ又ハ既ニ交付シタル定款ノ謄本ヲ徵シ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケ滅失シタル定款ニ代ヘテ之ヲ保存スルコトヲ要ス
第四十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第六十二條ノ六 第四十四條及第五十一條乃至第五十六條ノ規定ハ公證人ノ保存スル定款及其ノ附屬書類ニ之ヲ準用
○政府委員倉元要一君登壇
〔政府委員倉元要一君〕只今議題ニナリマシタ公證人法中改正法律案ニ付キマシテ御説明申上ゲマス、昨年第七十三回帝國議會ノ御協賛ヲ經テ公布ニ相成リマシタ商法中改正法律及ビ有限會社法ニ依リマシテ、株式會社、株式合資會社及ビ有限會社ノ定款ハ、公證人ノ認證ヲ受クルニアラザレバ、其ノ效力ヲ有セザルモノナツタノデアリマス、是ハ御承知ノ通り定款ヲ尊重シ、且ツ定款ノ所在又ハ其ノ内容ヲ確保スル爲ニ設ケラレタ規定デアリマスガ、此ノ新規定ニ對應スル爲ニ、公證人法中ニ定款ノ認證ニ關スル手續規定ヲ設ケル必要ガアリマスカラ、茲ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、尙ホ本案ノ内容ノ詳細ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ十分ニ御説明ヲ申上ゲル積リデアリマス、各位ニ於カレマシテハ、何卒慎

○副議長(金光庸夫君)	本案ノ審査ヲ付託 スベキ委員ノ選挙ニ付テ御諸リ致シマス
○服部崎市君	本案ハ政府提出人事調停法 案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君)	服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕	
○副議長(金光庸夫君)	御異議ナシト認メ マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
○副議長(金光庸夫君)	服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
○服部崎市君	殘餘ノ日程ハ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君)	服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕	
○副議長(金光庸夫君)	御異議ナシト認メ マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ 議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本 日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時五十六分散會	
頁段行誤正	
三〇五三八一九或國基督教	基督教
三一一三九九我國基督教	基督教
三一二一三三教義徹底	教義ノ徹底
三一二二二五團體國體	國體
三一二三一六精氣生氣	生氣
三一三三四一九宗教ノ宗教法	宗教法ノ
三一九三一二滴々嫡々	嫡々
三二五三一五五一法華教名體宗用教	名體宗用教
三二八三一八六國家制法經	法經
三三〇二七七千百三十百憲法的國家性	國家性